
第 134 回日本森林学会大会プログラム

会期 2023年3月25日(土)～3月27日(月)

会場 とりぎん文化会館(公開シンポジウム)、オンライン開催(研究発表)

大会日程

3月25日(土)

9:30～10:00 【開会式】

10:00～12:00 【日本森林学会各賞授賞式・受賞者講演】

13:00～16:30 【公開シンポジウム】 森と生きる～智頭林業の取り組みから～

16:30～18:30 【学会企画】 地方公設林業試験場とは何か? ～求む地域や大学との関わり～

3月26日(日)

9:00～12:00 【研究発表】 企画シンポジウム・公募セッション・部門別発表

13:00～17:30 【研究発表】 企画シンポジウム・公募セッション・部門別発表

17:00～18:00 【学会企画】 ゆるっと話そう あつまれ! がっかいの森

17:00～19:00 【学会企画】 帰国留学生会員およびアジアの林学会とのネットワークフォーラム

3月27日(月)

9:00～12:00 【研究発表】 部門別発表

12:15～13:45 【学会企画】 留学・研修を通じて見えてくる多様な価値観や考え方

14:15～16:30 【研究発表】 部門別発表

16:30～17:30 【閉会式】

3月25日(土)～3月27日(月) 【研究発表】 ポスター(オンデマンド閲覧)

主催 一般社団法人 日本森林学会

第134回日本森林学会大会運営委員会

山中典和(委員長), 永松大(副委員長), 池本省吾, 岩永史子, 谷口武士, 寺本宗正, 根本昌彦,
芳賀大地, 芳賀弘和, 藤本高明, 矢部浩, 山中啓介

連絡先

〒680-0001 鳥取市浜坂 1390 鳥取大学乾燥地研究センター内

第134回日本森林学会大会運営委員会

E-mail:134committee@forestry.jp

森と生きる

～智頭林業の取り組みから～

参加無料
申込不要

令和5年

3月25日土 13:00～16:30

会場 とりぎん文化会館小ホール
(鳥取市尚徳町101-5)

(((オンライン)))
同時配信

オンライン参加のURLは
日本森林学会のホームページ
に掲載します。
QRコードからお入りください。



プログラム

司会 芳賀大地(鳥取大学農学部)

基調講演 文化庁選定:重要文化的景観「智頭の林業景観」

～日本初の林業景観選定の意義～

中越信和: 広島大学名誉教授

講演1 智頭林業を支えた自然と人々の暮らし

山本福壽: 智頭の山人塾塾長

講演2 智頭林業の新たな展開～智頭ノ森ノ学ビ舎の取り組み～

國岡将平: 智頭ノ森ノ学ビ舎

パネルディスカッション 「智頭から地域の森林管理を考える」

コーディネーター: 芳賀大地

パネラー: 中越信和、山本福壽、國岡将平、村田周祐(鳥取大学地域学部)

パネル展「智頭の林業景観」

同時
開催

智頭の林業景観、智頭の林業関係資料(鳥取県指定
有形民俗文化財)等の紹介

期間: 令和5年3月24日(金)、25日(土)、26日(日)

とりぎん文化会館: フリースペース

協力: 智頭の山人塾、ちえの森ちづ図書館、智頭町教育委員会

森林・自然環境技術教育研究センター(JAFEE)による森林分野CPD(4時間)認定プログラム

主催: 一般社団法人 日本森林学会 共催: 公益社団法人 国土緑化推進機構
後援: 鳥取大学、公立鳥取環境大学、鳥取県

公益社団法人 国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」助成事業
お問い合わせ: yamanaka@tottori-u.ac.jp (山中典和)

2023年度 日本森林学会各賞 受賞者および受賞業績

1. 日本森林学会賞

浅野 友子 (東京大学)

大雨時の山地流域におけるピーク生起時刻の遅れは斜面ではなく主に河道で生じる

石塚 成宏 (森林総合研究所)

気候変動緩和のための温室効果ガスおよび土壌炭素の動態解明

2. 日本森林学会奨励賞

今村 直広 (森林総合研究所)

Estimation of the rate of ^{137}Cs root uptake into stemwood of Japanese cedar using an isotopic approach

経隆 悠 (森林総合研究所)

Comparison of the return period for landslide-triggering rainfall events in Japan based on standardization of the rainfall period

芳賀 和樹 (東京大学)

御山守の仕事と森林コントロール

3. 日本森林学会学生奨励賞

小林 慧人 (投稿時：京都大学 応募時：森林総合研究所)

Massive investments in flowers were in vain: Mass flowering after a century did not bear fruit in the bamboo *Phyllostachys nigra* var. *henonis*

堀田 亘 (投稿時：北海道大学 応募時：北海道大学)

Recovery and allocation of carbon stocks in boreal forests 64 years after catastrophic windthrow and salvage logging in northern Japan

峰尾 恵人 (投稿時：京都大学 応募時：京都大学)

国有林における大材生産政策の通史的解明—伝統木造建造物用材の入手難を念頭に—

4. Journal of Forest Research 論文賞

Motoshi Hiratsuka, Chaloun Bounithiphonh, Phonevilay Sichanthongthip, Miki Toda, Natsuko Kobayashi, Hozumi Hashiguchi and Chanhsumone Phongoudome (筆頭著者の所属：早稲田大学)

論文題目：Impacts of REDD+ activities on reduction in greenhouse gas emissions in northern Lao People's Democratic Republic

掲載巻号・頁・発行年：Vol.26, No.4, 278–286, 2021

5. 日本森林学会誌論文賞

美濃羽 靖・和田 誠・田中 紡 (筆頭著者の所属：京都府立大学)

論文題目：深層学習を用いた樹幹からの打撃音に基づく樹高および材積の推定

掲載巻号・頁・発行年：103 巻 5 号, 351-360, 2021 年

TAN JIAZE・道中 哲也・立花 敏 (筆頭著者の所属：筑波大学)

論文題目：中国の森林動態に対する社会経済要因の短期的および長期的影響

掲載巻号・頁・発行年：104 巻 2 号, 74-81, 2022 年

3月25日(土)10時から、授賞式ならびに学会賞、奨励賞、学生奨励賞の受賞者講演を行います。大会開催期間中、Journal of Forest Research 論文賞・日本森林学会誌論文賞のポスターをポスター会場に展示します。

大会に参加される方へ

オンライン会場への参加

本大会はオンライン会場（大会プラットフォーム“Claris“）で開催します。日本森林学会の大会ウェブサイト（<https://www.forestry.jp/meeting/>）にオンライン会場へのリンクを掲載します。参加申込みの際に発行された【WEB 受付番号】と【登録したメールアドレス】を用いて、オンライン会場にログインして下さい。

口頭発表会場への入室

オンライン会場内に、企画シンポジウム、公募セッション、部門別の口頭発表が行われる Zoom Meeting の Room へのリンクが貼られています。各 Room に入室する際は、名前の欄に「氏名（所属）」を記入し、マイクとカメラを必ずオフにして下さい。質疑は座長の進行にしたがい口頭で行います。挙手機能を用いて手をあげ、座長の指名を受けてからマイクをオンにして発言して下さい。また、口頭発表中にチャットへの文字入力による質問・コメントも受け付けます。

ポスター発表の閲覧

オンライン会場内にポスター発表のタイトル一覧が掲示されています。タイトルをクリックすると、発表要旨やポスターを閲覧することができます。質疑応答はチャット形式による文字入力で行い、コアタイム（リアルタイムの質疑応答）は設けません。

学術講演集

本大会では、学術講演集（要旨集）の冊子体を大会参加者に配布しません（希望者には後日販売します）。学術講演集の PDF 版は大会ウェブサイトにて3月中旬に掲載予定です。なお、各発表要旨はオンライン会場内に掲示され、個別に閲覧できます。

研究発表される方へ

口頭発表

公募セッションと部門別の口頭発表は Zoom Meeting で行います。上記「**口頭発表会場への入室**」に記した方法で、ご自身の発表会場（Room）へ発表時間 10 分前までに入室して下さい。発表は、発表者が自身の端末から発表資料を映して話すライブ（リアルタイム）形式です。質疑は、視聴者の挙手（挙手機能による）とチャットへの文字入力を座長が受け付け、応答は発表時間中に口頭で行います。このほか、数題の発表ごとに調整・討論の時間を配置します。発表用動画ファイルの事前提出は不要です。

ポスター発表

事前に提出された発表ファイルをオンライン会場内に掲示します。質疑応答は、掲示期間中にチャット形式で行います。発表ファイルの提出期間は 2023 年 2 月 1 日～3 月 10 日（厳守）です。

学生ポスター賞

日本森林学会学生ポスター賞は、筆頭発表者が学生会員であり、かつ申込時に学生ポスター賞に応募したポスター発表が対象です。ポスター発表は大会期間中を通して行いますが、学生ポスター賞の選考では、3 月 26 日（日）17:00 までのチャット上の質疑応答の内容を審査対象とします。審査期間内の質疑に回答がない発表は受賞できません。応募者は忘れずにチャットに返信してください。

企画シンポジウム

各コーディネータに運営をお任せしていますので、発表者はその指示に従ってください。

大会スケジュール 3月25日

会場	別サイト	Room 8
開始時刻		
9:00		
9:15	開会式・授賞式・講演	
9:30	開会式	
9:45		
10:00	森林学会各賞授賞式 受賞者講演	
10:15		
10:30		
10:45		
11:00		
11:15		
11:30		
11:45		
12:00		
12:15		
12:30		
12:45	公開シンポジウム	
13:00	森と生きる ～智頭林業の取り組みから～	
13:15		
13:30		
13:45		
14:00		
14:15		
14:30		
14:45		
15:00		
15:15		
15:30		
15:45		
16:00		
16:15		学会企画 1
16:30		地方公設林業試験場とは何か？ ～求む地域や大学との関わり～
16:45		
17:00		
17:15		
17:30		
17:45		
18:00		
18:15		
18:30		
18:45		

大会スケジュール 3月26日

会場	Room 1	Room 2	Room 3	Room 4	Room 5
開始時刻	S1	S3	S5	S7	
9:00			S5-1		
9:15	S1-1	S3-1	S5-2	S7-1	T2
9:30	S1-2	S3-2	S5-3	S7-2	T2-1
9:45	S1-3	S3-3	S5-4	S7-3	T2-2
10:00	S1-4	S3-4	S5-5		T2-3
10:15	S1-5	S3-5	S5-6		討論・調整
10:30		S3-6	S5-7		T2-4
10:45		S3-7	S5-8		T2-5
11:00		S3-8	S5-9		討論・調整
11:15			S5-10		
11:30			S5-11		
11:45			S5-12		
12:00					
12:15					
12:30					
12:45	遺伝・育種		S4	S2	T1
13:00	F1				趣旨説明
13:15	F2		S4-1	S2-1	T1-1
13:30	F3		S4-2	S2-2	T1-2
13:45	F4		S4-3	S2-3	T1-3
14:00	F5		S4-4	S2-4	討論・調整
14:15	F6		S4-5	S2-5	T1-4
14:30	討論・調整			S2-6	T1-5
14:45	F7			S2-7	T1-6
15:00	F8			S2-8	討論・調整
15:15	F9				T1-7
15:30	F10				T1-8
15:45	F11	林政 1	風致・観光1		T1-9
16:00	討論・調整	A1	B1		討論・調整
16:15		A2	B2		
16:30		A3	B3		
16:45		A4	B4		
17:00		討論・調整	B5		
17:15			討論・調整		
17:30					
17:45					
18:00					
18:15					
18:30					
18:45					

■企画シンポジウム一覧

- S1. マツヘリカメムシ、マツ類を被食する新規外来種の急速な分布拡大とその生態について
- S2. 環境変化にともなう樹林地生産性に関わる被食防衛
- S3. 人材育成をみすえた森林科学の専門教育の連携・つながりを考える－行政、教育機関、地域－
- S4. 「森林サービス産業」：エビデンス収集から社会実装への転換期に森林科学はどのように貢献できるのか？
- S5. ポスト2020生物多様性枠組（GBF）における保全と利用の相克と科学政策対話の役割
- S6. 山地森林環境の長期的な変化と、それらが水・土砂・流木の流出に及ぼす影響をふまえた災害予測の可能性
- S7. 生理部門企画シンポジウム「光エネルギーの上手な利用」とポスター紹介

大会スケジュール 3月26日

会場	Room 6	Room 7	Room 8	oVice	別サイト
開始時刻		経営1	S6		
9:00		D1	S6-1 S6-2 S6-3 S6-4		
9:15	T3 (樹木根)	D2			
9:30	T3-1	D3			
9:45	T3-2	討論・調整			
10:00	T3-3	D4			
10:15	討論・調整	D5			
10:30	T3-4	D6			
10:45	T3-5	討論・調整			
11:00	T3-6	D7			
11:15	T3-7	D8			
11:30	討論・調整	D9			
11:45		討論・調整			
12:00					
12:15					
12:30					
12:45	微生物・特用林産	経営2	防災・水文1		
13:00	M1	D10	J1		
13:15	M2	D11	J2		
13:30	討論・調整	D12	J3		
13:45	N1	討論・調整	J4		
14:00	N2	D13	J5		
14:15	討論・調整	D14	討論・調整		
14:30		D15	J6		
14:45		討論・調整	J8		
15:00		D17	J9		
15:15		D18	J10		
15:30		討論・調整	討論・調整		
15:45					
16:00					
16:15					
16:30					
16:45				学会企画4	学会企画5
17:00				ゆるっと話そう あつまれ！ がっかいの森	帰国留学生会員お よびアジアの林学 会とのネットワー クフォーラム
17:15					
17:30					
17:45					
18:00					
18:15					
18:30					
18:45					

■公募セッション一覧

- T1. 生物多様性保全と森林管理
- T2. 森林の放射能研究
- T3. 樹木根の成長と機能

大会スケジュール 3月27日

会場	Room 1	Room 2	Room 3	Room 4	Room 5
開始時刻	林政2	風致・観光2	教育	生理	立地
9:00	A6	B6	C1	G1	I1
9:15	A7	B7	C2	G2	I2
9:30	A8	B8	C3	G3	I3
9:45	討論・調整	討論・調整	討論・調整	G4	討論・調整
10:00	A9	B9	C4	討論・調整	I4
10:15	A10	B10	C5	G5	I5
10:30	A11	B11	C6	G6	I6
10:45	討論・調整	討論・調整	討論・調整	G7	I7
11:00	A12	B12	C7	G8	討論・調整
11:15	A13	B13	C8	討論・調整	
11:30	A14	B14	討論・調整		
11:45	討論・調整	討論・調整			
12:00					
12:15					
12:30					
12:45					
13:00					
13:15					
13:30					
13:45					
14:00	林政3	風致・観光3	経営3	造林	防災・水文2
14:15	A15	B15	D19	E1	J11
14:30	A16	B16	D20	E2	J12
14:45	A17	討論・調整	D21	E3	J13
15:00	A18	B17	D22	討論・調整	J14
15:15	討論・調整	B18	討論・調整	E4	J15
15:30	A19	B19		E5	討論・調整
15:45	A20	B20		E6	
16:00	A21	討論・調整		討論・調整	
16:15	討論・調整				
16:30	閉会式				
16:45					
17:00					
17:15					
17:30					
17:45					
18:00					

大会スケジュール 3月27日

会場	Room 6	Room 7	Room 8	別サイト
開始時刻	利用			
9:00	K1			
9:15	K2			
9:30	K3			
9:45	K4			
10:00	討論・調整			
10:15	K5			
10:30	K6			
10:45	K7			
11:00	K8			
11:15	K9			
11:30	討論・調整			
11:45				
12:00			学会企画3	学会企画2
12:15			留学・研修を通じて 見えてくる多様な価値観や考え方	大学での森林の学び や研究を知ろう-高校生と大学生との交流-
12:30				
12:45				
13:00				
13:15				
13:30				
13:45				
14:00	動物・昆虫	植物生態		
14:15	L1	H1		
14:30	L2	H2		
14:45	L3	H3		
15:00	討論・調整	討論・調整		
15:15	L4	H4		
15:30	L5	H5		
15:45	L6	H6		
16:00	L7	討論・調整		
16:15	討論・調整			
16:30	閉会式			
16:45				
17:00				
17:15				
17:30				
17:45				
18:00				

口頭発表座長一覧

部門	発表番号	座長氏名 (所属)	テーマ別セッション	発表番号	座長氏名 (所属)
林政1	A1~A4	林雅秀 (山形大学)	T1	T1-1~3	山浦悠一 (森林総合研究所)
林政2	A6~A8	高野涼 (弘前大学)		T1-4~9	山中聡 (森林総合研究所)
	A9~A11	芳賀大地 (鳥取大学)	T2	T2-1~3	小松雅史 (森林総合研究所)
	A12~A14	三木敦朗 (信州大学)		T2-4~5	大久保達弘 (宇都宮大学)
林政3	A15~A18	垂水亜紀 (森林総合研究所)	T3	T3-1~3	野口享太郎 (森林総合研究所)
	A19~A21	笹田敬太郎 (森林総合研究所)		T3-4~7	平野恭弘 (名古屋大学)
風致・観光1	B1~B5	山本清龍 (東京大学)			
風致・観光2	B6~B8	奥敬一 (富山大学)			
	B9~B11	庄子康 (北海道大学)			
	B12~B14	愛甲哲也 (北海道大学)			
風致・観光3	B15~B16	愛甲哲也 (北海道大学)			
	B17~B20	平野悠一郎 (森林総合研究所)			
教育	C1~C3	杉浦克明 (日本大学)			
	C4~C6	寺下太郎 (愛媛大学)			
	C7~C8	東原貴志 (上越教育大学)			
経営1	D1~D3	米康充 (島根大学)			
	D4~D6	山田祐亮 (森林総合研究所)			
	D7~D9	小谷英司 (森林総合研究所)			
経営2	D10~D12	高橋正義 (森林総合研究所)			
	D13~D15	加藤顕 (千葉大学)			
	D17~D18	光田靖 (宮崎大学)			
経営3	D19~D22	村上拓彦 (新潟大学)			
造林	E1~E3	平田令子 (宮崎大学)			
	E4~E6	太田敬之 (森林総合研究所)			
遺伝・育種	F1~F6	阪口翔太 (京都大学)			
	F7~F11	江島淳 (佐賀県林業試験場)			
生理	G1~G4	田原恒 (森林総合研究所)			
	G5~G8	則定真利子 (東京大学)			
植物生態	H1~H3	宮本和樹 (森林総合研究所)			
	H4~H6	小林慧人 (森林総合研究所)			
立地	I1~I7	高木正博 (宮崎大学)			
防災・水文1	J1~J5	清水貴範 (森林総合研究所)			
	J6~J10	延廣竜彦 (森林総合研究所)			
防災・水文2	J11~J15	佐藤貴範 (東京農業大学)			
利用	K1~K4	鈴木保志 (高知大学)			
	K5~K9	櫻井倫 (宮崎大学)			
動物・昆虫	L1~L3	中村克典 (森林総合研究所)			
	L4~L7	相川拓也 (森林総合研究所)			
微生物	M1~M2	松田陽介 (三重大学)			
特用林産	N1~N2	竹本周平 (東京大学)			

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション）3月26日 午前1/2

会場	Room 1	Room 2	Room 3	Room 4
開始時刻	S1 マツヘリカメムシ、マツ類を 被食する新規外来種の急速な 分布拡大とその生態について	S3 人材育成をみずえた森林科学の専門教育 の連携・つながりを考える ー行政、教育機関、地域ー	S5 ポスト 2020 生物多様性枠組（GBF）に おける保全と利用の相克と 科学政策対話の役割	S7 生理部門企画シンポジウム 「光エネルギーの上手な利用」と ポスター紹介
9:00	S1-1 マツヘリカメムシがクロマツ種子生産に及ぼす潜在的な影響：松永孝治（森林総合研究所林木育種センター九州育種場）ら S1-2 カメムシ類が針葉樹種子の稔実不良に及ぼす影響の評価：松田修（九州大学）ら	S3-1 中学校における社会や環境との関わりを考える森林学習の取り組み：長谷川愛（お茶の水女子大学附属中学校） S3-2 農業高校の森林・林業教育 森林環境科での10年の取り組みから：大和知朗（宮城県柴田農林高等学校） S3-3 高校でソーニングを学ぶ森林計画のロールプレイングプログラムの開発と普及：井上真理子（森林総合研究所）ら S3-4 スマート林業教育の推進など高校での森林・林業分野の専門教育に関する取組：栗富真理（林野庁） S3-5 産学官民で取り組む山岳科学の大学院教育・実習：アカデミアと社会を結ぶ：津田吉晃（筑波大学）ら S3-6 林業技能者養成における就業前専門教育の役割ー大分県を事例にー：小関崇（愛媛大学）ら S3-7 鹿児島大学演習林における教育関係共同利用拠点の展開：牧野耕輔（鹿児島大学） S3-8 森林技術者養成における大学教育の意味：板田邦宏（鹿児島大学）	S5-1 生物多様性 COP15 と OECMs：香坂玲（東京大学）ら S5-2 国立公園と遺産地域における利用価値と保全価値：栗山浩一（京都大学）ら S5-3 世界農業遺産に認定された国東半島宇佐地域でのクヌギ林の持続的活用と保全：林浩昭（国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会）ら S5-4 民間主体の生態系保全に資する組織連携の分析：南アルプスエコパークの事例：鈴木裕也（名古屋大学大学院）ら S5-5 携帯電話ビッグデータで挑む観光行動の解明：久保雄広（国立環境研究所）ら S5-6 野生鳥獣管理と人の移動実態に関するデータの分析に向けた考察：内山倫太（神戸大学）ら S5-7 多面的機能の観点から OECM 候補となる農地を推定する：大澤剛士（東京都立大学）ら S5-8 衛星画像を活用した農林地の管理状況の評価：高取千佳（九州大学）ら S5-9 航空機 LiDAR を活用した森林管理状況の把握：山本一清（名古屋大学）ら S5-10 森林経営管理制度におけるナッジの活用：畠田栄樹（国立研究開発法人産業技術総合研究所）ら S5-11 地方議会議事録分析による森林環境税の議論にみる位置付けの変容：松岡光（理化学研究所 革新知能統合研究センター）ら S5-12 自治体における野生動物保護管理の事業デザインと森林環境税：岸岡智也（金沢大学）ら	S7-1 野外的変動する光に対する光合成系のダイナミクス：矢守航（東京大学） S7-2 微弱光環境に生育する植物の光獲得戦略：後藤栄治（九州大学） S7-3 常緑樹は低温下でどのように光障害を防いでいるのか？：田中亮一（北海道大学）
9:15	S1-3 カメムシ類と腸内細菌の共生システム：細川真弘（九州大学） S1-4 熊本県合志市におけるマツヘリカメムシの個体群動態：原亮太郎（九州大学大学院）ら S1-5 マツヘリカメムシの春の行動様式：久米篤（九州大学）ら			
9:30				
9:45				
10:00				
10:15				
10:30				
10:45				
11:00				
11:15				
11:30				
11:45				
12:00				
12:15				
12:30				

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表） 3月26日 午前 2/2

会場	Room 5	Room 6	Room 7	Room 8
開始時刻			経営 1	S6 山地森林環境の長期的な変化と、 それらが水・土砂・流木の 流出に及ぼす影響を ふまえた災害予測の可能性
9:00			D1 管理優先度の高い森林と公的管理に関する現状と課題：高橋正義（森林総合研究所）ら	S6-1 埋没腐植層を通して斜面崩壊・土石流の発生と古環境を考える：岡本透（森林総合研究所） S6-2 山地溪流における流木災害の変化：石川芳治（東京農工大学）
9:15	T2 森林環境の持つ保健休養機能の 基礎的研究と応用研究	T3 樹木根の成長と機能	D2 i-Tree Ecoを用いたヒノキ人工林の貨幣価値の評価：炭素固定機能に着目して：江口則和（人間環境大学）ら	S6-3 国有林史料を活用した山地森林環境の史的 分析：芳賀和樹（東京大学） S6-4 かつて禿山だった白坂流域における1930年 からの土砂流出変化：湯野友子（東京大学）ら
9:30	T2-1 スギ・コナラの各部位およびリターに対する放射性セシウムの浸出試験：眞中卓也（森林総合研究所）ら	T3-1 巨根を含む土壌に生育するスギ根系の地中レーザを用いた検出精度：金子祥也（名古屋大学）ら	D3 林地の林業収益ポテンシャルを考慮した人工林伐採の現状と持続性の評価：山田祐亮（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	
9:45	T2-2 大気沈着形態が森林の放射性セシウムの初期挙動に及ぼす影響：加藤弘亮（筑波大学）ら	T3-2 粗根と細根を対象とした直径別の根現存量分布：地下1mの世界：朝倉知佳（信州大学）ら	討論・調整	
10:00	T2-3 染料トレーサーを用いたスギ林土壌中放射性セシウムの空間分布の評価：三嶋駿介（筑波大学）ら	T3-3 森林斜面における立木密度と根系効果の評価：斜面模型実験によるアプローチ：五味高志（名古屋大学）ら	D4 航空レーザデータに基づく立地環境区分による地位指数推定：向井花乃（京都府立大学大学院）ら	
10:15	討論・調整	討論・調整	D5 航空機 LiDAR データと時系列空中写真を用いたスギ人工林の地位指数推定：村上拓彦（新潟大学）ら	
10:30	T2-4 採取市町村内のばらつきを考慮した野生きのこの放射性セシウム濃度特性：小松雅史（森林総合研究所）	T3-4 淡路島のモウソウテクにおける枯死根量の説明：川瀬耕平（兵庫県立大学）ら	D6 無人航空機空中写真による過去の航空レーザ測量の森林資源情報の更新：小谷英司（森林総合研究所）ら	
10:45	T2-5 原木シイタケ露地栽培におけるホダ木から子実体への移行係数の経年変化：成松眞樹（岩手県林業技術センター）	T3-5 深層学習手法を用いた根圏画像からの細根抽出の性能比較：山形拓人（兵庫県立大学）ら	討論・調整	
11:00	討論・調整	T3-6 ヨーロッパアカマツの根の滲出物が泥炭の分解にもたらす影響：大橋瑞江（兵庫県立大学）ら	D7 UAV-LiDAR データからの樹幹形質推定手法の検討：平岡裕一郎（静岡県立農林環境専門大学）ら	
11:15		T3-7 苗場山ブナ林における細根への窒素分配：野口享太郎（森林総合研究所東北支所）ら	D8 ドローンおよびモバイル型レーザーキャナを用いた相対幹曲線式の作成：光門舞花（信州大学）ら	
11:30		討論・調整	D9 標準地調査のための地上およびモバイル端末レーザーキャナの精度と作業効率：米康充（島根大学）ら	
11:45			討論・調整	
12:00				
12:15				
12:30				

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表） 3月26日 午後 1/2

会場	Room 1	Room 2	Room 3	Room 4
開始時刻	遺伝・育種		S4 「森林サービス産業」： エビデンス収集から社会実装への 転換期に森林科学はどのように 貢献できるのか？	S2 環境変化にともなう樹林地生産性に 関わる被食防衛
13:00	F1 ロングリード技術による針葉樹4種の全ゲノム 解読：白澤健太（かずさDNA研究所）ら		S4-1 森林サービス産業の概要と異分野連携による 研究開発・実装の仕組みづくり：木下仁（林野庁） S4-2「森林サービス産業」の健康分野におけるエ ビデンス取得の現状とこれから：落合博子（独立 行政法人国立病院機構東京医療センター）	S2-1 環境変化にともなう樹林地の保全に関する 木本植物の被食防衛：小池孝良（北海道大学） ら S2-2 環境変化は被食防衛に何をたらすのか？ —食う昆虫と食われる植物の視点—：松木佐和 子（岩手大学）
13:15	F2 カラマツ雄花と雌花からの発現遺伝子の取得と 着花に関わる遺伝子座の探索：三嶋賢太郎（森 林総合研究所 林木育種センター 東北育種場） ら		S4-3「森林サービス産業」の観光分野における 取り組み：寺崎電雄（公益財団法人日本交通公 社）	S2-3 紫外線と被食防衛：北岡哲（北海道大学農 学研究院）ら
13:30	F3 GRAS-Di 技術を用いたコウヨウゼンの連鎖地 図構築とQTL解析：平尾知士（森林総合研究所 林木育種センター）ら		S4-4「森林サービス産業」の教育分野における 取り組み：木保知大（一般社団法人東京学芸大 Explayground 推進機構）	S2-4 ハウチワカエデ紅葉期のアントシアニンの挙 動と役割：北尾光俊（森林総合研究所）ら S2-5 環境因子によるエビククラワックス特性の 変化と葉面相互作用：佐瀬裕之（アジア大気汚 染研究センター）
13:45	F4 針葉樹4種のゲノム情報データベース Breeding Trees-by-Genesの構築：平川英樹（か ずさDNA研究所）ら		S4-5 森林サービス産業の社会的・学術的位相： 平野悠一郎（国立研究開発法人森林研究・整備 機構森林総合研究所）	S2-6 高CO ₂ 濃度環境下での落葉広葉樹の被食 防衛：渡辺陽子（北海道大学） S2-7 土壌環境の異なるコナラ成木の樹冠内にお ける葉の特性と虫害の鉛直分布：渡辺誠（東京 農工大学）ら S2-8 大気汚染環境におけるBVOCの役割と虫害 要因の変化：増井昇（静岡県立大学）
14:00	F5 シデコブシにおける遺伝的多様性、集団遺伝 構造および歴史的な集団動態：久田和磨（名古 屋大学大学院）ら			
14:15	F6 スギの適応遺伝変異の空間分布と気候変動へ の応答可能性評価：内山憲太郎（森林総合研究 所）ら			
14:30	討論・調整			
14:45	F7 トドマツ分枝集団のイオノーム分析：シュート伸 長量を定める遺伝と環境要因：後藤晋（東京大学） ら			
15:00	F8 トドマツ成木の冠雪害抵抗性に関連する力学 特性及び形態特性の産地間変異：菅井徹人（国 立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合 研究所 北海道支所）ら			
15:15	F9 引き倒し試験によるコウヨウゼン萌芽枝基部の 靱性の評価：加齢効果の検討：藤澤義武（森林 総合研究所林木育種センター）ら			
15:30	F10 寒冷地におけるスギのコンテナ育苗技術と成 長特性：宮本尚子（森林総合研究所林木育種 センター東北育種場）ら			
15:45	F11 低温貯蔵したスギコンテナ苗の植栽までの温 度変化と活着率：大平峰子（森林研究・整備機 構森林総合研究所林木育種センター）ら	林政1	風致・観光1	
16:00	討論・調整	A1 地域住民の共同活動を支援する交付金の農林 間の比較研究：高野涼（弘前大学）	B1 中部山岳国立公園におけるボランティアを活用 した登山道整備に関する研究：堀彰種（名古屋 大学大学院）ら	
16:15		A2 中山間地域と都市部の連携による森林管理・ 整備の実態および意向調査：石佳凡（早稲田大 学）ら	B2 北アルプス南部地域における登山道維持の課 題と利用者参加制度：愛甲哲也（北海道大学） ら	
16:30		A3 林地開発による太陽光発電施設の設置と豪雨 災害—熊本県を事例に—：岡本尚之（九州大学） ら	B3 国立および国定公園における利用者負担制度 の現状：系統的検索の結果から：深津幸太郎（北 海道大学）ら	
16:45		A4 気候変動枠組条約の下での森林炭素吸収量 の計上方法と各国の森林・林業政策：塚田直子 （近畿大学）ら	B4 国立公園における協力金に対する支払意志 額：持続可能な費用負担に向けて：千葉泰史（北 海道大学）ら	
17:00		討論・調整	B5 知床国立公園における代替交通手段の有料化 に対する利用者の選好把握：金慧隣（北海道大 学）ら	
17:15			討論・調整	

研究発表題目（部門別口頭発表）3月26日午後2/2

会場	Room 5	Room 6	Room 7	Room 8
開始時刻	T1 生物多様性保全と森林管理	微生物・特用林産	経営 2	防災・水文 1
13:00	趣旨説明	M1 マツ類における樹脂滲出調査の適用可能時期の検討：中村克典（森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	D10 深層学習を用いた航空機 LiDAR による竹林抽出可能性の検討：西山明慶（名古屋大学）ら	J1 間伐はスギの蒸散活動や樹液流動特性にどのような影響を与えるのか？：飯田真一（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
13:15	T1-1 人工林における保持林業の実証実験 初期の成果の概要：尾崎研一（森林総合研究所）	M2 Colonization and diversity of arbuscular mycorrhizal fungi associated with Japanese cedar in Yakushima natural forest: Yustikasari Linda (Mie University) ら	D11 3次元レーザーデータを用いた撈乱後の実生状況把握：菊地未宙（千葉大学）ら	J2 遮断蒸発モデルに置く仮定が流出予測に及ぼす影響：靄山寛樹（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
13:30	T1-2 トドマツ人工林主伐時における上層木の保残が下層植生に及ぼす影響：明石信廣（北海道立総合研究機構 林業試験場道北支場）ら	討論・調整	D12 レーザーを用いた地すべりによる樹木への影響把握：長岡佑樹（千葉大学）ら	J3 雨滴データを活用した樹冠内の雨水通過経路の推定：南光一樹（国立研究開発法人森林研究・整備機構）ら
13:45	T1-3 人工林の生物多様性保全に向けた保持木の選定：山中聡（森林総合研究所）	N1 設定後40年経過したマツタケ試験地の状況(Ⅱ) 一気象環境の変化一：古川仁（長野県林業総合センター）ら	討論・調整	J4 水収支要素の長期傾向が地下水同位体比変動に与える影響の地域間比較：勝山正則（京都府立大学大学院）ら
14:00	討論・調整	N2 伐採時期・伐採高さがクロモジの萌芽発生におよぼす影響：高橋輝昌（千葉大学）ら	D13 マルチスペクトル画像を用いた造林木自動検出手法の検討：中川太人（精密林業計測株式会社）	J5 有機物の炭素・酸素安定同位体比からみた中央アジアの塩生植物の水利用特性：藤村光希（三重大学）ら
14:15	T1-4 保持林業の四国での適用：国有林と水源林のスギ・ヒノキ人工林での取り組み：山浦悠一（森林総合研究所）ら	討論・調整	D14 UAVによる再造林地の現況把握：大槻峻介（名古屋大学）ら	討論・調整
14:30	T1-5 防風林管理が育む絶滅危惧種と生物多様性：速水将人（北海道立総合研究機構）ら		D15 UAV画像を用いたクマ剥ぎ被害木の自動分類：隔間芳野（信州大学）ら	J6 煙の畝形状のリモートセンシングから防風林の風食防止効果がわかる：岩崎健太（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
14:45	T1-6 人工林の主伐はヨタカに生息地を提供する：北海道中部での8年間の調査：河村和洋（森林総合研究所）ら		討論・調整	J8 令和4年台風第14号による宮崎県の山地災害の特徴：篠原慶規（宮崎大学）ら
15:00	討論・調整		D17 レーザーによるリアルタイム森林計測システムの開発：加藤顕（千葉大学）ら	J9 森林および降雨の変化が土砂災害に与える影響についての予備手検討：執印康裕（九州大学）ら
15:15	T1-7 ミミズの保全に配慮した森林管理を目指して：かき起こし施業を事例に：河上智也（北海道大学）ら		D18 2時期の航空レーザー測量による森林評価：北林拓（アジア航測株式会社）ら	J10 流域の貯留量指標として源頭部の地表流発生域を用いたピーク流量の解析：芳賀弘和（鳥取大学）ら
15:30	T1-8 亜熱帯林での林冠ギャップ下と閉鎖林下における光環境の不均質性：谷口真吾（琉球大学）ら		討論・調整	討論・調整
15:45	T1-9 衛星データを用いた生物多様性ポテンシャル評価の試み：若月優姫（国際航業株式会社）ら			
16:00	討論・調整			

研究発表題目（部門別口頭発表） 大会スケジュール 3月27日 午前 1/2

会場	Room 1	Room 2	Room 3	Room 4
開始時刻	林政 2	風致・観光 2	教育	生理
9:00	A6 京都府丹波地域における栗生産の実態と特質：野瀬光弘（京都大学東南アジア地域研究所）ら	B6 ヘルスケアに向けた森林レクリエーションの轉的・動的プログラムの実践事例：竹内啓恵（樹づ木合同会社）ら	C1 森林資源の循環利用を学ぶゲーム型教材の開発と実践：北橋善範（北海道立総合研究機構森林産試験場）	G1 多様な木本植物における光化学系IIの光阻害防御機構に関する研究：辻祥子（京都大学）ら
9:15	A7 宮崎県諸塚村におけるクスギ人工林経営の現状と課題：杉本拓生（宮崎大学）ら	B7 地域の森への関わりと健康に関する意識—山中湖村住民へのアンケート調査：藤原章雄（東京大学大学院）ら	C2 中学生を対象とした鉛筆の軸木評価の授業実践：東原真志（上越教育大学）ら	G2 垂高山常緑針葉樹における樹高に沿った師部の形態とシロ糖濃度の勾配：種子田春彦（東京大学）ら
9:30	A8 大分県におけるシイタケ原木の需給の変遷と原木移出：石原昌宗（九州大学大学院）ら	B8 森林空間利用における医療費削減・制度活用・健康宣言へ対応の現状と課題：高山範理（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	C3 岩手県遠野市における小中学生の自然体験と森林に対する意識：内田知世（岩手大学）ら	G3 スギにおける単糖トランスポーター遺伝子 <i>CSTP4</i> の単離と解析：細尾佳宏（信州大学）ら
9:45	討論・調整	討論・調整	討論・調整	G4 カラマツの成長とフェノロジーのリモートセンシング計測法の開発：佐野春香（東京大学大学院）ら
10:00	A9 森林所有者の伐採や林地売買に及ぼす要因の日境比較：久保山裕史（国立研究開発法人森林研究整備機構森林総合研究所）ら	B9 UAV画像を用いた嵐山国有林における文化的森林景観の季節変化の把握：王聞（京都大学大学院）ら	C4 長崎県対馬市の地域固有の生物に着目した教育と森林・林業：杉浦克明（日本大学）ら	討論・調整
10:15	A10 地域性苗木生産者の現状と課題—三重県大台町を事例に—：興祖克久（筑波大学）ら	B10 武蔵府中大國魂神社社農の樹種構成と過去約200年の変化：吉川正人（東京農工大学）ら	C5 やんばる国立公園における密猟・盗採の管理体制に関する対話の現状と課題：大島順子（国立大学法人 琉球大学）ら	G5 イチョウの二次木部における通水様式：工藤佳世（秋田県立大学）ら
10:30	A11 木くず処理のフロー図作成と中間処理施設のCO2排出量推計：茨城県を事例に：片田陽菜（筑波大学）ら	B11 昭和中期の富山県氷見市におけるボカシ林業地の重層的土土地利用：池田俊寛（富山大学）ら	C6 自然体験活動を導入した中学生の集団宿泊学習の教育効果：山田亮（北海道教育大学岩見沢校）	G6 スギ苗木の土壌乾燥による樹木枯死の生理的な point of no return について：才木真太郎（森林総合研究所）ら
10:45	討論・調整	討論・調整	討論・調整	G7 イヌマキの根部土壌除去に伴う水ストレスに摘葉と蒸散抑制剤が与える影響：高橋玄（千葉県農林総合研究センター）ら
11:00	A12 花粉症有病者と人工林の位置の相互関係についての統計的研究：高橋卓也（滋賀県立大学）ら	B12 ボストン広域パークシステムにおけるランドスケープ・フォレストリー：清水裕子（一般社団法人 森林風致計画研究所）	C7 森林法を林業の教科書として読む — 1833年のバーデン森林法を題材に：寺下太郎（愛媛大学）	G8 アカマツの生理生態的形質に対する産地の効果と植栽地の効果：三木直子（岡山大学）ら
11:15	A13 森林認証が林業労働と労働安全へ及ぼす影響—静岡県天竜地域を例に—：滝沢裕子（岩手大学）	B13 COVID-19の感染拡大による都市緑地利用の変化と管理者の対応：諸岡航太郎（北海道大学大学院）ら	C8 森林環境教育実践者のライフストーリーの語り：比屋根哲（岩手大学）	討論・調整
11:30	A14 地鏡によるカーボンニュートラル事業：大塚生美（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）	B14 自身および他者のお気に入り風景の注意回復評価：尾崎勝彦（ひむこリハビリテーション専門職大学）ら	討論・調整	
11:45	討論・調整	討論・調整		
12:00				
12:15				
12:30				

研究発表題目（部門別口頭発表） 大会スケジュール 3月27日 午前 2/2

会場	Room 5	Room 6	Room 7	Room 8
開始時刻	立地	利用		
9:00	11 放射性炭素を利用した微生物呼吸の年代とその影響因子の評価：安藤麻里子（日本原子力研究開発機構）ら	K1 過去の災害記録を用いた、気候変動下における林道施設災害発生数予測の試み：宗岡寛子（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら		
9:15	12 「森林土壌デジタルマップ」の公開と今後の予定について：石塚成宏（森林総合研究所）ら	K2 油圧ショベルによるバケットを用いた転圧の力：國分大地（東京農工大学）ら		
9:30	13 森林土壌団粒の野外再形成過程に土壌表面の人工的被覆が及ぼす影響：小野裕（信州大学）ら	K3 ウェアラブルセンサを用いた林業作業における労務管理への応用：榎本真（BIPROGY 株式会社）ら		
9:45	討論・調整	K4 フォワード走行作業は精神的ストレスを与えるのか？：金井るみ（東京農工大学）ら		
10:00	14 亜熱帯常緑広葉樹林における尾根と谷に適応した樹種の細根形質の違い：蜂須賀莉子（鹿児島大学）ら	討論・調整		
10:15	15 Estimation of radiation transfer and rainfall interception by modeling 3D canopy structure from drone LiDAR data：張宇攀（筑波大学）ら	K5 The Occupational and Safety Health System on Pine Resin Harvesting in Indonesia: MADYA SEPTIANARATIH (UNITED GRADUATE SCHOOL OF AGRICULTURE SCIENCE, TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE AND TECHNOLOGY) ら		
10:30	16 酸緩衝能が異なるスギ・ヒノキ人工林における土壌有機物の蛍光特性：林亮太（名古屋大学大学院）ら	K6 海外製自動植付機の作業性能：山田健（森林総合研究所）ら		
10:45	17 山岳域における樹木細根の窒素吸収機能の全容：標高による変化の解明：伊藤拓生（信州大学）ら	K7 低密度植栽を行った樹齢32年のヒノキの成長量と非破壊試験による強度性能：渡辺靖崇（広島県立総合技術研究所 林業技術センター）ら		
11:00	討論・調整	K8 スギ人工林をバイオマス生産用早生樹林に転換する際の温室効果ガス収支：佐藤惟生（東京農工大学）ら		
11:15		K9 高知県における木質バイオマス小規模熱利用の現状と普及拡大可能性：鈴木保志（高知大学）ら		
11:30		討論・調整		
11:45				
12:00				学会企画 3
12:15				ダイバーシティシンポジウム 「留学・研修を通じて見えてくる多様な価値観や考え方」
12:30				

研究発表題目（部門別口頭発表） 大会スケジュール 3月27日 午後 1/2

会場	Room 1	Room 2	Room 3	Room 4
開始時刻				
13:00				
13:15				
13:30				
13:45				
14:00	林政 3	風致・観光 3	経営 3	造林
14:15	A15 北陸地方の山村における伝統的な農業の存続状況の解明：上田隆太郎（名古屋大学大学院）ら	B15 日本のエコツーリズム研究におけるガイドの役割に関する試論：藍場将司（名古屋大学大学院）ら	D19 ALOS-2 データを用いた伐採検知情報の茨城県森林クラウドでの利用：林真智（宇宙航空研究開発機構）ら	E1 人工光型植物工場で育成したカラマツ苗の形質と馴化の取組：野末はつみ（信州大学）ら
14:30	A16 捕獲された害獣個体の多用途利用について：稲富拓人（筑波大学）	B16 阿蘇くじゅう国立公園の二次的草原を活用した地元観光ガイドの現状と課題：町田怜子（東京農業大学）ら	D20 衛星データと深層学習を用いた、全県森林変化域検出の試み2：渡邊学（東京電機大学）ら	E2 人工光で育成したカラマツ苗の越冬方法の検討：下山真人（株式会社大林組）ら
14:45	A17 明治末に行われた沖繩の森林所有の近代化に関する理解の改訂：齋藤和彦（森林総合研究所関西支所）	討論・調整	D21 16-year of forest dynamics in Hokkaido: an accurate and on-time forest change detection with Google Earth Engine: MarquesCamila（Chiba University）ら	E3 異なる時季の施肥とその量がスギ苗木の養分蓄積に与える影響：比江島尚真（鹿児島大学）ら
15:00	A18 ヨーロッパ諸国における恒続林思想の歴史的变化と展開：佐藤直子（Kyushu University）ら	B17 レクリエーション PES としてのキノコ狩りの可能性 一日伊の事例比較：柴田晋吾（上智大学）	D22 シエムリアップ州における森林伐採パターンのモニタリング：相原直生（宮崎大学）ら	討論・調整
15:15	討論・調整	B18 国立公園における半自然草原の減少と文化的価値の発見：八巻一成（森林総合研究所）	討論・調整	E4 海岸防災林再生地に植栽されたクロマツ苗の衰退状況：真坂一彦（岩手大学）ら
15:30	A19 北山村における観光後下り事業の展開：柴崎茂光（東京大学）	B19 立山弥陀ヶ原の地形と植生の特徴から考える自然保護のあり方：大宮徹（富山県農林水産総合技術センター 森林研究所）ら		E5 単木保護資材のコウヨウザン野兎害に対する防除効果：古本拓也（広島県立総合技術研究所 林業技術センター）ら
15:45	A20 消失した里山資源が持つ意義と再生の可能性：大津市守山の「あぶらぼん」：齋藤暖生（東京大学）ら	B20 日本の国立公園制度創成期に関する研究：才木一朗（東京農業大学大学院）ら		E6 福島県相馬地方の3林分における間伐実施後の林床植生：上原巖（東京農業大学）
16:00	A21 京都大学芦生研究林における木地師遺構の保全について：坂野上なお（京都大学）	討論・調整		討論・調整
16:15	討論・調整			
16:30	閉会式			
16:45				
17:00				
17:15				

研究発表題目（部門別口頭発表） 大会スケジュール 3月27日 午後 2/2

会場	Room 5	Room 6	Room 7	Room 8
開始時刻				
13:00				
13:15				
13:30				
13:45				
14:00	防災・水文 2	動物・昆虫	植物生態	
14:15	J11 森林斜面における原位置透水試験へのゲルパーミアメータ法の適用：正岡直也（京都大学）ら	L1 2021年にシカによって剥皮害を受けたサラサドウダン樹皮の1年後の再生状況：阪上宏樹（九州大学）ら	H1 樹液流速の計測に基づくコナラ林とスギ林のオゾン吸収量の推定：田中亮志（東京農工大学）ら	
14:30	J12 Biomat/soil water repellency differences between thinned and not-thinned <i>Chamaecyparis obtusa</i> plantations.: Farahnak Moein（東京大学）ら	L2 カシノナガキクイムシの寄主木への飛来方向を探る：山崎理正（京都大学）ら	H2 日本国内の森林の地上部バイオマスと気候条件、樹木機能形質の関係：梶野浩史（東北大学）ら	
14:45	J13 森林斜面における土壌水分変動モデルの作成と精度の検証：情野敦（信州大学大学院）ら	L3 ナラ枯れの媒介昆虫カシノナガキクイムシの生態はどこまで解明されたのか？：小林正秀（京都府森林技術センター）	H3 外来マングローブが示す西表島の熱帯化：渡辺信（琉球大学）	
15:00	J14 土壌圧縮が土層深部の水移動に及ぼす影響：横川晴一（信州大学大学院）	討論・調整	討論・調整	
15:15	J15 流量・水質・地下水位データを利用した地下水流動の推定：稲岡諒（京都大学）ら	L4 昆虫病原性線虫 <i>H. megidis</i> SOz01 株のマツノマダラカミキリ殺虫活性評価：小澤壮太（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	H4 赤津研究林白坂小流域における最近 23 年間の森林変化：澤田晴雄（東京大学）	
15:30	討論・調整	L5 マツノザイセンチュウにおける昆虫便乗の特異性獲得とその段階的進化：桐野巴瑠（明治大学）ら	H5 天然更新の目的樹種となる広葉樹の種子は自然の森林土壌で何年存続するか？：正木隆（国立研究開発法人森林研究・整備機構）ら	
15:45		L6 岐阜県の栽培アラゲキクラゲから検出された線虫について：津田格（岐阜県立森林文化アカデミー）	H6 電子野帳システムを用いた植物繁殖フェノロジー調査の実践：浅野郁（信州大学）ら	
16:00		L7 微地形がリター分解に与える影響 一大型土壌動物の機能に着目して一：中辻宏平（東京農工大学）	討論・調整	
16:15		討論・調整		
16:30	閉会式			
16:45				
17:00				
17:15				

ポスター発表一覧 1/2

#印は学生ポスター賞の審査対象

ポスター番号	部門	ポスター番号	部門	ポスター番号	部門	ポスター番号	部門	ポスター番号	部門
P-001	林政	P-057	経営	P-113	造林	P-169 #	造林	P-225 #	生理
P-002		P-058		P-114		P-170	P-226		
P-003		P-059		P-115		P-171	P-227		
P-004		P-060		P-116		P-172	P-228		
P-005		P-061		P-117		P-173	P-229		
P-006		P-062		P-118		P-174	P-230		
P-007		P-063		P-119		P-175	P-231		
P-008		P-064		P-120		P-176	P-232 #		
P-009		P-065		P-121		P-177	P-233 #		
P-010		P-066		P-122		P-178	P-234		
P-011		P-067		P-123		P-179	P-235		
P-012 #		P-068		P-124		P-180	P-236 #		
P-013 #		P-069		P-125		P-181	P-237 #		
P-014 #		P-070		P-126		P-182	P-238		
P-015 #		P-071		P-127		P-183	P-239		
P-016 #		P-072		P-128		P-184	P-240		
P-017 #		P-073		P-129		P-185	P-241		
P-018 #		P-074		P-130		P-186	P-242		
P-019 #		P-075		P-131		P-187	P-243		
P-020 #		P-076		P-132		P-188	P-244		
P-021 #		P-077 #		P-133		P-189	P-245		
P-022 #		P-078 #		P-134		P-190	P-246		
P-023 #		P-079 #		P-135		P-191	P-247		
P-024	P-080 #	P-136	P-192	P-248					
P-025	P-081 #	P-137	P-193	P-249					
P-026	P-082 #	P-138	P-194	P-250					
P-027	P-083 #	P-139	P-195	P-251					
P-028	P-084 #	P-140	P-196	P-252					
P-029	P-085 #	P-141	P-197 #	P-253					
P-030	P-086 #	P-142	P-198 #	P-254					
P-031	P-087 #	P-143	P-199 #	P-255					
P-032	P-088 #	P-144	P-200 #	P-256					
P-033 #	P-089 #	P-145	P-201 #	P-257					
P-034 #	P-090	P-146	P-202 #	P-258					
P-035 #	P-091	P-147	P-203 #	P-259					
P-036 #	P-092	P-148	P-204 #	P-260					
P-037 #	P-093	P-149	P-205 #	P-261 #					
P-038 #	P-094	P-150	P-206 #	P-262 #					
P-039 #	P-095	P-151 #	P-207 #	P-263 #					
P-040 #	P-096	P-152 #	P-208 #	P-264 #					
P-041 #	P-097	P-153 #	P-209 #	P-265 #					
P-042 #	P-098	P-154 #	P-210 #	P-266 #					
P-043 #	P-099	P-155 #	P-211 #	P-267 #					
P-044 #	P-100	P-156 #	P-212 #	P-268 #					
P-045	P-101	P-157 #	P-213 #	P-269 #					
P-046	P-102	P-158 #	P-214	P-270 #					
P-047	P-103	P-159 #	P-215 #	P-271					
P-048	P-104	P-160 #	P-216	P-272 #					
P-049 #	P-105	P-161 #	P-217	P-273					
P-050 #	P-106	P-162 #	P-218	P-274 #					
P-051 #	P-107	P-163 #	P-219	P-275 #					
P-052 #	P-108	P-164 #	P-220 #	P-276 #					
P-053	P-109	P-165 #	P-221 #	P-277 #					
P-054	P-110	P-166 #	P-222 #						
P-055	P-111	P-167 #	P-223 #						
P-056	P-112	P-168 #	P-224						

研究発表題目（ポスター発表）

林政		風致・観光		教育
P-001 振興山村における生活排水処理施設整備の現状：高田乃倫予（岩手大学）	P-017 空中写真を用いた50年間の森林の時系列変化の把握—高山市岩井地区の事例—：米田紗歩（岐阜大学）ら	P-024 計量テキスト分析による高尾山と筑波山に関するツイートの比較：小田龍聖（森林総合研究所）	P-041 コロナ禍における登山者の行動変化とその要因—飯豊連峰での調査結果から—：生亀嘉奈子（山形大学）ら	P-045 草木染による染色の森林環境教育への活用可能性：石橋登司（東京大学）
P-002 木質バイオマスの化学品利用に向けた課題：林政学的立場から：峰尾恵人（京都大学）ら	P-018 民間企業に対するカーボネクジットの購入動機：渡邊匡海（新潟大学）ら	P-025 静岡市における小規模わび田の文化的景観を取り巻く観光構造：田中伸彦（東海大学）ら	P-042 トラベルコスト法とSNS分析を用いた文化的生態系サービスの経済的評価：大庭隼（新潟大学）ら	P-046 生徒が持つ環境教育に関する学習観と自然への愛着との関連：大塚啓太（森林研究・整備機構森林総合研究所）ら
P-003 地域森林計画における伐採・造林の前期実績量の総括文言：富山啓介（東京大学）ら	P-019 埋蔵文化財包蔵地における林業の実施可能性：小島妃紀乃（福島大学）ら	P-026 筑波山観光客の豚熱およびアフリカ豚熱に対する認識：長沼知子（農研機構）ら	P-043 Mapping conservation priorities for capital relocation in Borneo, Indonesia: GizawiAgie（三重大学）ら	P-047 定点映像・音声により遠くの森と実感的に繋がる環境学習プログラムの開発：中村和彦（東京大学）ら
P-004 林政学分野における「予定調和」論再考：古井戸宏通（東京大学）	P-020 鳥取県の森林環境保全税を活用した竹林整備事業の現状と課題：菅原龍生（鳥取大学）ら	P-027 森・里山を活用した癒しのプログラムの試行—静岡県川根本町と牧之原市で—：竹内真一（東海大学）ら	P-044 日本における樹木葬の普及要因：P-048 里山教育事始め：倉本宣（明治大学）ら	
P-005 森林生態系多様性基礎調査を用いた森林所有者と森林現況の実態把握：宮本麻子（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）	P-021 鳥独比較による本邦森林組合の課題検証：杉本凜（鳥取大学）ら	P-028 森林散策頻度と日常の疲労度との関連：J-MICC Study 静岡地区：森田えみ（森林総研 / 筑波大学）ら	P-049 関東地方の博物館施設における森林関連コーナーの展示構造：三浦万由子（日本大学大学院）ら	
P-006 国内木材産業における近年の設備投資動向：嶋瀬拓也（森林総合研究所）	P-022 鳥取県日南町における木材の総合カスケード利用の現状と課題：吉元舞依子（鳥取大学）ら	P-029 ソーシャルメディア分析によるトレイルの観光レク利用ホットスポットの評価：神宮翔真（森林総合研究所）	P-050 主要な森林系資格に求められる知識と森林科学を学べる大学で取得可能な資格：水井英葉（日本大学）ら	
P-007 高品質燃料チップの地域内供給体制—山陰地方T町における取組事例：横田康裕（森林総合研究所）ら	P-023 林業労働災害と安全管理—作業現場における安全対策に着目して—：石井智也（東京農業大学）ら	P-030 岩手県—関市夏山地区・横沢地区にみる習俗の分析：園原和夏（日本大学）ら	P-051 林業大学校における志願者数の動向と学生募集活動の状況：小川高広（京都大学）	
P-008 1990年代以降における世界の原木・製材貿易と日本の海上輸送システムの変化：島崎真智（国立研究開発法人森林総合研究所）		P-031 秩山丘陵のコナラ二次林におけるナラ類集団枯損の特徴：平塚基志（早稲田大学）ら	P-052 オンライン・オンデマンド型森林教育プログラムの検討：西連寺麻友（日本大学）ら	
P-009 原木市場における丸太の強度表示が購入者に与える影響：田中亘（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら		P-033 南アルプス国立公園の登山道管理：行政機関・山小屋・地元団体の取り組み：内山雄介（東京農工大学大学院）ら		
P-010 新規就業者はなぜ林業を選んだのか—林業大学校修了生への聞き取り—：泉柱子（岩手県立大学）ら		P-034 巨木が日本人に与えるイメージに関する考察：蔡寧馨（東京大学）ら		
P-011 四国地方における造林事業の歴史—明治から昭和にかけて—：垂水亜紀（森林研究・整備機構 森林総合研究所 四国支所）ら		P-035 世界自然遺産登録による地域住民の価値観の変遷—徳之島における事例—：亀崎朝衣（京都大学）		
P-012 福島大学金谷川キャンパスにおける自然管理体系と関係者の意識：小山航平（福島大学）ら		P-036 フォレストアドベンチャーと周辺地域の関係—山梨県小菅村を事例として—：小出菜子（東京農業大学）ら		
P-013 日本における森林管理と利用についての官民連携の歴史：陳田（東京大学）ら		P-037 高知よさこい祭りにおける鳴子の選好と購入促進効果：田村尚也（高知大学）ら		
P-014 「木材利用促進法」施行前後の公共建築物木造化の変化：倪寛（東京大学）ら		P-038 緑地景観を構成する要素のうち、「行ってみたい」と思わせるものは何か：毒島春喜（東京農業大学）ら		
P-015 京都府・南丹地域における木材流通構造の把握：高梨一竹（東京大学大学院）ら		P-039 東京都における街路樹整備の取り組み：盧奕蓋（東京大学）ら		
P-016 近世から近代における青梅材の生産・輸送システムの評価：若狭夏海（東京農工大学大学院）ら		P-040 国立公園の環境価値と利用者負担政策の評価手法開発に関する研究：穴見賢志朗（京都大学）		

研究発表題目（ポスター発表）

経営		造林		
P-053 災害危険度の高い民有林を探して管理するための技術と方法を開発し伝える：鷹尾元（森林総合研究所）	P-069 深層学習を用いた皆伐跡地における切り株自動検出アルゴリズムの開発：林悠介（株式会社エフパイオス）	P-085 Discriminating conifer and broadleaf cover in an uneven-aged forest using UAV imagery and machine learning: Nyo Me Htun (The University of Tokyo)	P-093 防獣ネット柵のめくり上げ侵入を防ぐ、地際部ワイヤー緊張による対策：大場孝裕（静岡県西部農林事務所）	P-109 ネットゼロエミッションの達成のための高分解能森林吸収源評価モデルの開発：小南裕志（森林総合研究所）
P-054 山梨県南都町における公民連携木質バイオマスガス化発電とバイオ炭活用構想：佐藤孝吉（東京農業大学）	P-070 LiDAR 未観測地域での空撮による資源量推定のための簡易地盤推定：古家直行（森林総合研究所北海道支所）	P-086 Estimating stand parameters of a 114-year-old Japanese larch plantation using UAV photogrammetry: Karthigesu Jeyavanan (The University of Tokyo)	P-094 シラカンパ植栽木の生残と成長に対する地表処理の影響：橋本徹（森林総合研究所）	P-110 関東に生育するヤナギの成長に対する堆肥の効果と養分濃度：香山雅純（森林総合研究所）
P-055 GIS におけるタンザニアの森林資源の推定に関する一考察：吉野聡（東京農業大学）	P-071 空中写真を用いた長期時系列点群データによる足尾山地復旧過程モニタリング：松英恵吾（宇都宮大学）	P-087 UAV 空撮による森林計測手法の開発 -LiDAR データによる自動補正方法の開発：吉田圭佑（名古屋大学）	P-095 シラカンパ人工林の直径分布に対するワイプル関数の適用：内山和子（北海道立総合研究機構林業試験場）	P-111 コウヨウザンに適用可能な単木材積式の検討：山田浩雄（森林総合研究所林木育種センター）
P-056 広葉樹材の価格と決定要因：北川涼（森林総合研究所関西支所）	P-072 航空機 LiDAR データによる平均枝下高の決定方法に関する研究：高橋興明（森林総合研究所九州支所）	P-088 ULS LiDAR Penetration Index による葉面積指数の評価：松澤武志（静岡大学）	P-096 クリーンラーチ植栽木の初期成長に及ぼす苗木形状と立地条件の影響：原山尚徳（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）	P-112 年輪幅が揃った良質材生産のための密度管理と個体の専有面積：高橋絵里奈（鳥取大学）
P-057 秋田地方における天然スギ林の成長 -土内沢試験地における 97 年間の観測 -：西園朋広（森林総合研究所）	P-073 久万高原町スギ群状伐採林における 2 時期の LiDAR 解析による樹高成長の推定：豊田信行（海岳森林技術士事務所）	P-089 PointNet++ を用いた樹種分類の検討：三浦一将（名古屋大学大学院）	P-097 40 年次に優勢であったトマツ家系の成長曲線の特徴：花岡創（森林総合研究所林木育種センター）	P-113 低密度植栽にて生産した木材の節の状況：松本純（大分県）
P-058 九州地方国有林ヒノキ林分の最多密度曲線の検討：近藤洋史（森林総合研究所）	P-074 衛星データを用いた伐採後の森林回復の評価：志水克人（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）	P-090 ALS データを活用した森林多面的機能評価の検討：菊地真以（宇都宮大学大学院）	P-098 スギ優良品種の成長特性 -普通苗木との比較：米田令仁（森林総合研究所）	P-114 低温層処理および恒温・変温条件下におけるエゾミヤマザサ種子の発芽応答：梅村光俊（国立研究開発法人森林研究・整備機構）
P-059 スギ人工林での肥大成長に対して局所密度と樹高・樹冠が及ぼす影響について：田中邦宏（森林総合研究所関西支所）	P-075 GEDI LiDAR を使用した森林構造把握のための基礎検討：前田佳子（国際航業（株））	P-091 航空機 LiDAR による森林管理手法の開発 - DBH 推定手法の精度比較 -：神野航（名古屋大学）	P-099 九州産スギ品種の窒素利用の可塑性と攪乱に対する肥大成長の応答：榎木勉（九州大学）	P-115 元肥の濃度と肥効期間の違いがスギコンテナ苗の成長に及ぼす影響：小笠真由美（森林総研関西）
P-060 平均樹高と林分密度による平均直径の推定：井上昭夫（近畿大学）	P-076 奥秩父山地に生育する樹木の成長速度・死亡率モデルの作成：深澤直希（千葉大学）	P-092 上空からのレーザ計測によるブナ林の単木情報解析：許明琪（新潟大学）	P-100 茨城県中部の植栽試験地における斜面位置によるスギ苗木の成長の違い：齋藤隆英（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）	P-116 1 年生ヒノキ実生コンテナ苗の効率育成にむけた元肥条件の検討：茂木靖和（岐阜県森林研究所）
P-061 地位指数推定モデル開発におけるデータソースの違いが及ぼす影響：光田靖（宮崎大学）	P-077 固定試験地におけるスギの成長量と微地形との関係：上岡流太（京都府立大学）	P-101 約 800 系統のスギ精英樹における成木の成長速度と樹冠構造の違いについて：小野田雄介（京都大学）	P-117 保存環境や育苗期間の異なるスギ実生コンテナ苗の形態と植栽後の成長：山中豪（三重県林業研究所）	
P-062 ボクセルデータを用いたスギ人工林間伐後の樹冠成長過程：飯田玲奈（宇都宮大学 / 群馬県林業試験場）	P-078 マダケ属 3 種における稈高曲線の検討：矢田滝（近畿大学大学院）	P-102 高齢成長データを考慮したスギ林炭素蓄積量の予測：仲畑了（東京大学）	P-118 芽生え移植時の葉の展開ステージと根切断がコンテナ苗の成長に及ぼす影響：安達直之（鳥取県中山間地域研究センター）	
P-063 CNN-Web アプリを用いて林内全天球画像から推定した人工林資源情報の検証：矢田豊（石川県森林総合研究センター）	P-079 ライフサイクルアセスメントを用いた森林施業の炭素放出削減効果の評価：亀井勇人（東京大学）	P-103 標高の異なるヒノキ林において間伐が葉量と幹成長量に及ぼす影響：稲垣善之（森林研究・整備機構）	P-119 底面給水と頭上灌水がスギコンテナ苗の水使用と成長に及ぼす影響：近藤晃（静岡県立農林環境専門職大学）	
P-064 TLS と UAV・ALS を合わせた樹高推定 -茨城県有林での事例 -：北原文章（森林総合研究所）	P-080 人工林の管理方針の特徴に関する日中比較：張珂（東京大学）	P-104 木曾ヒノキ伐採株の年代推定とその状態：酒井武（森林総合研究所）	P-120 ウルシコンテナ苗当年成長におよぼす施肥の影響：白旗学（岩手大学）	
P-065 地上レーザ計測と航空レーザ計測における林内空間情報の比較：和田のどか（岐阜大学 / 中日本航空株式会社）	P-081 最近 10 年の民有林の植栽傾向：査世昊（東京大学）	P-105 釜ヶ崎アベマキ巨木林の林分構造と成立過程：藤木大介（兵庫県立大学）	P-121 植栽後の成長から見たカラマツコンテナ苗の条件：二本松裕太（長野県林業総合センター）	
P-066 UAV を用いた下草刈り作業地の作業確認：大地純平（山梨県森林総合研究所）	P-082 Utilization of bio-charcoal from woody biomass gasification to promote climate-smart agriculture in Yamanashi, Japan: KOLONEL Christian (東京農業大学)	P-106 モンゴルにおけるカラマツとカンパの混交率が異なる 3 林分の構造と現存量：城田徹夫（信州大学）	P-122 育苗時の秋の追肥がスギコンテナ苗の植栽後 3 年間の成長に及ぼす影響：飛田博順（森林総合研究所）	
P-067 解像度が異なる UAV オルソ画像で判読した林相界の比較：木村一也（石川県森林組合連合会）	P-083 Sentinel-1 と Sentinel-2 を用いた森林減少・劣化推定方法：李哲（九州大学）	P-107 マレーシアの森林劣化後の草地に生育する草本とシダのバイオマス推定式：子田中憲威（国際農林水産業研究センター）	P-123 植栽直前の葉面散布がスギコンテナ苗の活着と成長に与える影響：山下直子（(国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所関西支所）	
P-068 OPEN DRONE MAP と Metashape で生成したオルソ画像の比較：福島成樹（千葉県森林総合研究センター）	P-084 衛星画像データを用いた竹林の総面積の算出法の開発：水野智章（金沢工業大学）	P-108 四国地方の幼齢造林地に侵入した先駆種の地上部・地下部現存量の関係式：福本桂子（森林総合研究所四国支所）	P-124 スギ実生コンテナ苗の育苗密度および根鉢容量が植栽 3 年目に与える影響：藤井栄（徳島県立農林水産総合技術支援センター）	

研究発表題目 (ポスター発表)

造林		遺種・育種		
P-125 クロマツ海岸林における最低限の植栽密度に関する試案：小倉晃 (石川県農林総合研究センター 林業試験場)	P-141 スギ植栽木の枝分布と被陰樹冠の光合成を考慮した競合植生の被圧効果の定量：伊藤百 (宮崎大学) ら	P-157 インドネシアのチーク林における植物種多様性に及ぼす林縁効果の季節変化：溝口拓朗 (宮崎大学) ら	P-170 スギ (<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don) の全ゲノム配列の決定：藤野健 (東京大学) ら	P-186 カラマツのネズミ食害程度に影響する遺種と環境の要因探索：米澤美咲 (北海道立総合研究機構林業試験場) ら
P-126 海岸防災林再生地に植栽されたコナラ苗木の5年間の生長：土壌改良材の効果：高橋一秋 (長野大学)	P-142 初期全刈りに後期筋刈りを組合せた下刈り省力化とスギ植栽木の初期成長：八木貴信 (森林総合研究所)	P-158 ドローンLiDARデータを用いた林内光環境解析：高村詩央里 (筑波大学) ら	P-171 スギゲノム参照配列を用いた雄性不連続伝子 (<i>MS2</i>) 候補遺伝子の同定：上野真義 (森林総合研究所) ら	P-187 共通の抵抗性クロマツ実生を用いた複数箇所のマツノザイセンチュウ接種試験：井城泰一 (森林総合研究所林業試験場) ら
P-127 山形県曹田地方におけるブナ二次林の皆伐後の更新：澤田佳美 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら	P-143 九州での広域多点調査から見た植栽後10年間のスギ人工林の変化：山川博美 (森林総合研究所九州支所) ら	P-159 UVから緑色光へ変換するフィルムがカラマツコンテナ苗の成長に与える影響：強瀬洋 (北海道大学) ら	P-172 遺伝子発現解析からみたスギの越冬：能勢美峰 ((国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター) ら	P-188 穂木のサイズがコウヨウザンさし木苗の直立性に与える影響：近藤禎二 (森林総合研究所林木育種センター) ら
P-128 人工林皆伐地における大型草食獣の採餌量の推定：酒井敦 (森林総合研究所) ら	P-144 斜面位置がセンダンの生存率と初期成長に及ぼす影響：宇数京介 (岐阜県森林研究所) ら	P-160 旧薪炭ブナ林における間伐がブナ実生の生存・成長に与える影響：和泉祐子葉 (新潟大学大学院) ら	P-173 スギさし木発根過程における遺伝子発現変動：福田有樹 (森林総合研究所林木育種センター九州育種場) ら	P-189 13C バルサラベリングを用いたスギ2品種の樹体内炭素配分：榎浦正子 (京都大学) ら
P-129 ホノキの天然更新実施におけるササ刈払いの効果：岡山侑子 (富山県) ら	P-145 石川県における早生樹の成長量比較試験-4樹種による検討-：向野峻平 (石川県農林総合研究センター林業試験場) ら	P-161 切り木の周囲はヒノキの実生発生に有利なのか？：増田衣里 (静岡大学) ら	P-174 若齢時評価値は成長形質のゲノム予測精度を向上させるか？材質形質との比較：永野聡一郎 (森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター) ら	P-190 若齢時におけるスギ少花粉品種のジベリル処理による雄花着生性：宮下久哉 ((国研) 国立研究開発法人 森林研究・整備機構) ら
P-130 ヒノキ人工林皆伐跡地における天然更新の阻害要因の検討 (第2報)：久田善輔 (岐阜県森林研究所) ら	P-146 スギ人工林にウダイカンバが混生した針広混交林の30年間の構造変化：杉田久志 (富山県農林水産総合技術センター森林研究所) ら	P-162 人はスギ人工林のどこを見て荒廃していると判断するのか？：杉浦悠大 (鳥取大学) ら	P-175 希少樹種オガサワラグワの島鳥自生地の実生のSSRマーカーによる親子解析：玉城聡 (森林総合研究所) ら	P-191 母樹のサイズがスギの種子生産と発芽率に及ぼす影響：木村恵 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター) ら
P-131 重機地拵え後の施工環境の変化および植生の回復-表土を残す作業の効果-：山崎遥 (岩手大学) ら	P-147 スギ人工林の択伐後15年間の下層植生と階層構造の変化：塚原雅美 (新潟県森林研究所) ら	P-163 下刈りスケジュールがスギ造林地における競合植生の種組成変化に与える影響：羽田珠里 (宮崎大学) ら	P-176 SSRマーカーによるキハダの系統地理学的解析：稲永路子 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター) ら	P-192 ギヤツ種子の成熟時期の地域間変異：生方正俊 (森林総合研究所林木育種センター北海道育種場) ら
P-132 シラカンバ二次林における伐採後の萌芽更新に関わる立地・個体の特性：吉田俊也 (北海道大学) ら	P-148 ヒノキ人工林における広葉樹の更新に及ぼす間伐と採食圧の影響：渡邊仁志 (岐阜県森林研究所) ら	P-164 遺伝子発現から見た酢酸によるスギ苗の細根の吸水抑制機構の検討：小林裕子 (東京大学) ら	P-177 核SNPによるギヤツ育種母材の遺伝構造解析とフェノロジーの系統間比較：福田陽子 (森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 北海道育種場) ら	P-193 ヒノキミニチュア採種圃の管理技術の検討：三浦真弘 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構) ら
P-133 冷温帯天然林における伐根サイズに応じた針葉樹実生更新状況の変化：岡田慶一 (東京農業大学) ら	P-149 ヒノキ人工林 Gap-Sloss 試験地の15年後の現況：水永博己 (静岡大学) ら	P-165 異なる競合植生下におけるスギ植栽木の成長に与える枝量の影響：原谷日菜 (宮崎大学) ら	P-178 有用広葉樹ケヤキの遺伝的多様性とフェノロジー等特性の評価：矢野慶介 ((国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 北海道育種場) ら	P-194 エゾマツ採種圃の着花状況 - 4年間の雄花及び雌花の着花数について -：加藤一隆 (森林総合研究所林木育種センター北海道育種場) ら
P-134 スギ優良品種による下刈り省力の可能性検証-四国中央部での事例：大谷達也 (森林総合研究所) ら	P-150 帯状伐採後18年が経過したヒノキ人工林の広葉樹群落について：作田耕太郎 (九州大学) ら	P-166 ユーカリのコンテナ育苗における培地の影響：永嶋春輝 (東京農工大学) ら	P-179 効率的な交配手法開発に向けたヒノキの雄花・雌花開花フェノロジー評価：坪村美代子 (森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら	P-195 トドマツコンテナ苗の育苗期間短縮に向けた取り組み：成田あゆ (北海道立総合研究機構林業試験場) ら
P-135 単木保護資材が広葉樹およびアカマツの苗木成長に及ぼす影響：土井裕介 (地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所) ら	P-151 樹材への適性を考慮したミズナラ二次林における個体の育成方法：仲谷朗 (北海道大学) ら	P-168 アカマツ-ヒノキ二段林におけるアカマツ択伐2年後の更新木の種組成：山崎千穂 (信州大学) ら	P-180 広域産地試験の九州試験地における国内アカマツ集団の雌雄開花の早晚性：岩泉正和 (森林総合研究所林木育種センター九州育種場) ら	P-196 薬用樹木カギカズラの組織培養によるクローン苗増産技術の開発：小長谷賢一 ((国研) 森林研究・整備機構) ら
P-136 下刈り履歴の異なる茨城北部の造林地における雑草木4樹種の再生：奥田史郎 (森林総合研究所) ら	P-152 低木の展葉フェノロジーがブナ稚樹の光獲得と成長に与える影響：佐藤楓 (新潟大学) ら	P-169 シカ食害下のナラ枯れ被害林分において施肥方法の違いが更新に与える影響：福井善一 (京都府立大学) ら	P-181 トドマツの長期産地試験地を用いたホームサイトアドバンテージの検証：石塚航 (北海道立総合研究機構) ら	P-197 畿越地域に分布するクロモジ属の遺伝構造と遺伝的多様性：吉川太一 (新潟大学) ら
P-137 カラマツ植栽木の初期サイズが下刈り回数に及ぼす影響：大矢信次郎 (長野県林業総合センター) ら	P-153 89年生ヒノキ林縁個体の枝の心材分布：伊藤太陽 (信州大学) ら	P-182 アカマツ10産地の2年生苗を用いた冬季水分生理特性の幼老相関：河合慶恵 (森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター関西育種場) ら	P-198 MIG-seq法を用いたフタバガキ科樹木セラヤの遺伝的変異と集団構造の評価：小空原実里 (愛媛大学大学院) ら	
P-138 省力下刈りが実施された8年生造林地の植栽木の状況：長谷川喬平 (山梨県森林総合研究所) ら	P-154 Y-N理論を用いたウルシ林のサイズ分布予測と林分の最大漆液収量の推定：会田裕雅 (岩手大学) ら	P-183 三箇所のスギ壮齢検定林における冬季水分生理特性の幼老相関：河合慶恵 (森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター関西育種場) ら	P-199 The Relationship between Soil Fungal Communities and Growth of Three <i>Betula ermanii</i> Populations in Five Planting Sites: Aye Myat Myat Paing (The University of Tokyo) ら	
P-139 多目的造林機械を利用した地拵えと下刈り1事例：野宮治人 (森林総合研究所九州) ら	P-155 UAVオルソ画像を用いた広葉樹の樹冠の広がりと幹傾斜の評価：大野田直弥 (信州大学) ら	P-184 九州育種基本区のスギ人工交配実生集団における樹冠形状の遺伝性：武津英太郎 (森林研究・整備機構) ら	P-200 カラマツとギヤツの天然林集団における葉緑体DNA変異：北村颯太 (名古屋大学) ら	
P-140 異なる下刈りスケジュール下のスギ苗木の樹冠形状の系統間比較：山岸穂 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所九州支所) ら	P-156 低照射密度LiDARと衛星画像を用いた人工林における立木密度推定手法の開発：橋本朝陽 (筑波大学) ら	P-185 爽春交配家系からの無花粉スギ優良系統候補木の選抜：西原寿明 (愛媛県農林水産研究所林業研究センター) ら	P-201 イヌブナにおける核DNA変異と系統地理学：久保田裕太 (名古屋大学大学院) ら	

研究発表題目（ポスター発表）

遺伝・育種	生理	生理	植物生態	植物生態
P-202 プナにおけるデモグラフィーの歴史の推定：頼承筠（名古屋大学）ら	P-210 微小重力環境下における樹木の初期成長：源光寺美季（京都府立大学）ら	P-226 野外において光合成最適温度を変化させる生育温度以外の要因について：飯尾淳弘（静岡大学）ら	P-242 直径に対する肥大量は枝幹根で異なるか：温帯のクロマツを用いた検証：田邊智子（京都大学）ら	P-258 人為攪乱の程度が異なるペルー山地林における森林構造と群集組成：宮本和樹（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
P-203 プナ集団のストレス応答・フェノロジー関連候補遺伝子の塩基配列変異の検出：佐藤駿祐（名古屋大学）ら	P-211 西日本海岸林構成樹種の成長と生存に土壤浸水処理がおよぼす影響：半田みほ（鳥取大学）ら	P-227 成長特性の異なるスギ品種間での樹幹加温に対する発現変動遺伝子解析：宮崎祐子（岡山大学）ら	P-243 ミヤマハシノキの年輪幅を用いた鳥海山の雪渓規模の推定：沈豆東（秋田県立大学）ら	P-259 生態系モデルを利用した首都圏落葉樹林の炭素動態と植生管理の影響評価：矢崎友嗣（明治大学）ら
P-204 日本列島におけるミネカエデとナゴクミネカエデの分布境界とその形成過程：竹内虎輔（東京大学大学院）ら	P-212 ウリハダカエデで見られた早春の樹液滲出量と夏季の成長特性の関係：齋藤楓華（岩手大学）ら	P-228 <i>Melaleuca cajuputi</i> の窒素吸収の高温応答：則定真利子（東京大学）ら	P-244 富士山亜高山帯針葉樹林の森林動態に及ぼすニホンジカ剥皮の影響：長池卓男（山梨県森林総合研究所）ら	P-260 タケ類開花の現況と開花記録の収集：市民参加型調査に向けて：小林慧人（森林総合研究所関西支所）ら
P-205 ヒナウチワカエデとコハウチワカエデの交雑実態—葉の形質と葉緑体 DNA 解析：戸口侑紀（日本女子大学）ら	P-213 樹木細根の水分生理特性は山岳標高差に対してどのように応答するか？：増本泰河（信州大学）ら	P-229 ユーカリのフィットエン不飽和化酵素遺伝子のゲノム編集：西口満（森林総合研究所）ら	P-245 秋田佐渡スギ天然林の台風被害後 31 年間の林分動態：太田敬之（森林総合研究所）ら	P-261 広葉樹林における市民参加型の毎木調査と管理計画案の検討：黒瀬海晴（京都府立大学大学院）ら
P-206 国内でみられるキリ属種の遺伝的系統と遺伝的多様性：長沢和（宇都宮大学）ら	P-214 南根腐病に罹病した苗木の通水機能および気孔反応特性：矢崎健一（森林総合研究所）ら	P-230 閉鎖林冠下に生育するトドマツ稚樹の LMA と光阻吾感受性との関係：角田悠生（地方独立行政法人北海道立研究機構）ら	P-246 空中写真判読による北八ヶ岳枯樹の LMA と光阻吾感受性との関係：角田悠生（地方独立行政法人北海道立研究機構）ら	P-262 クリの萌芽と潜伏芽の関係性：石原奏（新潟大学）ら
P-207 Single and multi-trait genomic prediction integrating additive and dominance genetic effects in hybrid larch: 陳淑芬（東京大学）ら	P-215 アコースティックエミッションの発生頻度から推測した通水機能の変動：小切社仁（神戸大学大学院）ら	P-231 アラカシ苗木の幹における CO2 ガス交換特性：楢本正明（静岡大学）ら	P-247 落葉広葉樹二次林におけるナラ枯れ後の植生および林内環境の経年変化：籠谷泰行（滋賀県立大学）ら	P-263 種子生産の種間同調はジェネラリスト捕食者による種子の損失を変えるか？：本間千夏（秋田県立大学）ら
P-208 プナ実生の土壌乾燥ストレスに対する葉の発現変動遺伝子の探索：青日菓子（三重大学）ら	P-216 3 地域に植栽された落葉広葉樹の主幹における木部形成と老化：梅利利弘（秋田県立大学）ら	P-232 タケカンバの電子伝達速度と気孔コンダクタンスの環境応答とその産地間差：中田修人（静岡大学）ら	P-248 中央アルプスの亜高山帯緑葉樹林における下層木の 13 年間の標高別林分動態：小林元（信州大学）ら	P-264 環境要因と実生の形質特性が実生の生残に与える影響：策勒格爾（名古屋大学）ら
P-209 <i>Shorea macrophylla</i> の成長特性に関するゲノム予測モデル作成手法の比較：阿久津春人（筑波大学）ら	P-217 クロマツの幹および葉の貯留水利用の可能性：東若菜（神戸大学）ら	P-233 トドマツ成木の見かけの加幹と樹勢の衰えに伴う光化学系 II 活性の高温応答：田嶋健人（北海道大学）ら	P-249 軽井沢のカラマツ林風倒跡地に成立した二次林における埋土種子相の季節変化：津田美子（なし）	P-265 知床国有林択伐跡地における 35 年間の稚樹層密度・種組成の変化：古宮悠希（山形大学大学院）ら
P-218 干潟のマングローブの蒸散特性：宮次良行（九州大学）	P-219 萌芽林整理が行われたアラカシ株立ち個体の樹液流速の変動：渡部颯太（九州大学）ら	P-234 クロマツ種木の成長特性への中間台木の影響：中島剛（地方独立行政法人青森県産業技術センター林業研究所）	P-250 プナ稚樹の個体群動態と林冠状態、地形状況、および種内競争の関係：鳥丸猛（三重大学）ら	P-266 早池峰山のアカエゾマツ自生南限地における動態予測：浅瀬石育吹（岩手大学大学院）ら
P-220 スギ樹幹における成長呼吸由来の CO ₂ 放出速度～木部分化帯幅との関係：平谷理人（信州大学大学院）ら	P-217 クロマツの幹および葉の貯留水利用の可能性：東若菜（神戸大学）ら	P-235 太平洋側型プナと日本海側型プナ成木樹冠内の葉の可塑性の違い：上村章（森林総合研究所）ら	P-251 施業履歴の異なるプナ林の 20 年間の動態と地上部現存量変化：野口麻穂子（森林総合研究所東北支所）ら	P-267 倒木が発生した大規模雪崩跡地における亜高山帯針葉樹林構成種の更新：永田純夢（信州大学）ら
P-221 冷温帯落葉広葉樹林 8 種における幹呼吸季節変化：中田悠登（静岡大学）ら	P-218 異なる温度環境に生育するプナ非同化器官の成長・維持における呼吸特性：小松亮（静岡大学）ら	P-236 都市の緑空間の局所的な環境がイロハモミジの紅葉に及ぼす影響：宇佐美広祐（東京農工大学）ら	P-252 天然分布以北におけるプナの種子生産変動：今博計（北海道立総合研究機構）ら	P-268 Detection of characteristics of tree crown shapes using UAV images in Nonobori beech forest, Kameyama, Mie: Huang Kaiji (三重大学)ら
P-222 プナのミトコンドリアゲノムにおけるアミノ酸変異と呼吸特性：前田唯真（北海道大学大学院）ら	P-219 冷温帯落葉広葉樹林 8 種における幹呼吸季節変化：中田悠登（静岡大学）ら	P-237 ヒノキ科樹木の防御反応における傷つけ処理と外生植物ホルモン処理の影響：竹田真子（鳥取大学）ら	P-253 マルチスペクトルドローンを用いたプナの光合成と葉色づきの関係解析：小出大（国立環境研究所）ら	P-269 ドローン LiDAR を用いた葉面積指数推定手法の検討：飯屋園純平（東京大学）ら
P-223 プナのミトコンドリアゲノムにおけるアミノ酸変異と呼吸特性：前田唯真（北海道大学大学院）ら	P-220 スギ樹幹における成長呼吸由来の CO ₂ 放出速度～木部分化帯幅との関係：平谷理人（信州大学大学院）ら	P-238 樹病罹病木内の病原菌特異的定量における樹種による定量阻害：山口宗義（国立研究開発法人 森林総合研究所）ら	P-254 隠岐諸島におけるミズナラの葉と堅果の形態的多様性：立花寛孝（(一社) 隠岐ジオパーク推進機構）ら	P-270 冷温帯落葉広葉樹林における UAV-LiDAR を用いた樹冠構造の種多様性の評価：谷瑞木（静岡大学）ら
P-224 アルミニウム耐性樹木ユーカリが含む加水分解性タンニンの LC-MS 分析：田原恒（国立研究開発法人 森林研究・整備機構）ら	P-221 冷温帯落葉広葉樹林 8 種における幹呼吸季節変化：中田悠登（静岡大学）ら	P-239 Al ストレス環境下で生育した <i>Melaleuca cajuputi</i> の根のペクチン分解：山ノ下卓（東京大学）ら	P-255 隠岐諸島におけるヒメコマツの生育状況：久保満彦子（島根大学）ら	P-271 タケカンバ産地試験における 3 年生苗木の樹冠構造：室谷楓香（信州大学）ら
P-225 プナ苗木の光合成能力の高温レジリエンスとリボソーム量に及ぼす施肥の影響：川江朝々香（北海道大学）ら	P-222 異なる温度環境に生育するプナ非同化器官の成長・維持における呼吸特性：小松亮（静岡大学）ら	P-240 アルミニウム耐性樹木ユーカリが含む加水分解性タンニンの LC-MS 分析：田原恒（国立研究開発法人 森林研究・整備機構）ら	P-256 温帯老齢林の維管束着生植物の分布に対し宿主木サイズと基質が与える影響：駒田夏生（京都大学）ら	P-272 タケカンバ相互移植実験における産地・環境・樹形の関係性の解析：棚田みのり（新潟大学）ら
P-226 プナ苗木の光合成能力の高温レジリエンスとリボソーム量に及ぼす施肥の影響：川江朝々香（北海道大学）ら	P-223 プナのミトコンドリアゲノムにおけるアミノ酸変異と呼吸特性：前田唯真（北海道大学大学院）ら	P-241 草本モデル植物を用いたユーカリの加水分解性タンニン合成遺伝子の探索：山崎中希（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	P-257 北海道の冷温帯林におけるササの地上部バイオマス量・高さ・密度の関係：松山周平（酪農学園大学）ら	P-273 海岸クロマツ林内ギャップにおける海浜植物の分布と植栽：突然更新木の生育：趙星一（兵庫県立大学）ら

研究発表題目（ポスター発表）

植物生態	立地	防災・水文
P-274 ハリエンジュの葉および根のポリフェノールに及ぼす生育環境の影響：林寛紀（東京農工大学大学院）ら	P-278 森林土壌メタン・CO ₂ フラックスの全国モニタリング網の構築：橋本昌司（森林総研）ら	P-294 プナニ次林土壌の温室効果ガス動態に開伐が及ぼす影響：秋田大輝（新潟大学）ら P-305 室内燃焼実験によるスギ・アカマツ・カラマツの葉リター層の延焼速度：吉藤奈津子（(国研) 森林研究・整備機構）ら P-321 北関東地域の森林小流域における漂流水質の長期変動：浦川梨恵子（アジア大気汚染研究センター）ら
P-275 シカ高密度環境におけるミズナラ林冠木のシュート成長と土壌窒素供給性：長根由紀子（酪農学園大学大学院）ら	P-279 富山県上市町周辺における過去7000年間の森林変遷とスギの拡大：志知幸治（森林総合研究所）ら	P-295 シカ食害により変化した森林構造がもたらす地上部・地下部炭素蓄積量の違い：阿部隼人（九州大学）ら P-306 コナラ林におけるイソプレンの貯留特性：深山貞文（森林総合研究所）ら P-322 森林小流域の崩壊面積率の違いが炭素と窒素の河川流出に及ぼす影響について：井手淳一郎（公立千歳科学技術大学）ら
P-276 熱帯雨林における葉のリター分解に伴う栄養素組成の変化：花谷周亮（兵庫県立大学）ら	P-280 森林土壌の母材の違いが下層土壌の微生物呼吸量に与える影響：阿部有希子（日本原子力研究開発機構）ら	P-296 Effects of litter and soil N mineralization on soil solution chemistry in a Moso bamboo and a Japanese cedar forest: 付東川（九州大学）ら P-307 暖温带落葉広葉樹林におけるガス交換特性：高梨聡（森林研究・整備機構）ら P-323 倒流木を除去した漂流区間における倒流木の再発生・流下の経年変化：島田博臣（三重県林業研究所）ら
P-277 北方針広混交林のトドマツとミズナラ下層木の光合成に及ぼす高温の影響：松田侑樹（北海道大学）ら	P-281 枯死木の炭素蓄積量は天然林と人工林で異なる：川西あゆみ（森林総合研究所）ら	P-297 あいち海上の森の異なる表層地質に起因する土壌特性とヒノキ林成長の違い：松山哲夫（名古屋大学大学院）ら P-308 太平洋側の温暖な低地に生育するプナの水利用効率：小坂泉（日本大学）ら P-324 スギ根系の表層崩壊防止効果の検討事例：岡田康彦（(国研) 森林研究・整備機構）ら
P-282 ネットゼロエミッションの達成に資する森林吸収源評価枠組みの構築：松井哲哉（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	P-298 スギ・ヒノキ人工林における近接した斜面位置の土壌理化学性の違い：赤間有紀（東京農工大学）ら	P-309 関東および九州のスギ・ヒノキ林での観測に基づく水利用効率の季節変化：清水真希（国立研究開発法人 森林研究・整備機構）ら P-325 降雨のリターンペリオドの空間分布が崩壊の密度と面積に及ぼす影響：経隆悠（(国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
P-283 機械学習による森林土壌メタンフラックス予測モデルの構築：森大吾（森林総合研究所九州支所）ら	P-299 葉・細根分解過程における多元素放出パターンとそれに樹種混合が与える影響：柵木香奈穂（名古屋大学大学院）ら	P-310 強度開伐後の森林状態および流域蒸発散量の変化：邱湏璋（東京農工大学）ら P-326 土砂災害後の漂流における河床安定性の評価：笠原玉青（九州大学）ら
P-284 化合物組成の異なる根分泌物が森林土壌の微生物および窒素循環に与える影響：中山理智（日本原子力研究開発機構）ら	P-300 森林源頭域における渓流水質に及ぼす土壌化学性の影響：曹越（東京農工大学）ら	P-311 森林薄と航空レーザーを用いた樹高・密度推定：広域蒸発散推定への応用：猪越翔大（東京農工大学）ら P-327 水文観測結果を基礎とした土砂災害発生予測—未経験降雨指数の活用—：小杉賢一朗（京都大学）ら
P-285 Roles of microbial turnover in soil carbon and nitrogen dynamics in a Japanese beech forest: 藤井一至（森林総研）ら	P-301 Methane emission from living and dead cypress stems in a temperate coniferous forest: Liu Zhining（京都大学）ら	P-312 Modelling Moso bamboo stand transpiration: 久米朋直（九州大学大学院）ら P-328 不透過型堰堤における流木の停止過程の数値シミュレーション：鈴木拓郎（(国研) 森林研究・整備機構森林総合）ら
P-286 森林斜面に沿った土壌特性の違いにシカが及ぼす影響：廣部宗（岡山大学）ら	P-302 大湫神明神社および伊勢神宮のスギ巨木に含まれる硫黄同位体比の変遷：塩出晏弓（名古屋大学）ら	P-313 高齢級カラマツ人工林の樹冠遮断について：廣瀬満（山梨県森林総合研究所）ら P-329 作業道開設を伴う間伐を行った人工林における土砂移動および濁水流出：延廣彦彦（森林総合研究所）ら
P-287 山陰地方のスギ人工林における窒素循環に対する間伐の効果：藤巻玲路（島根大学）ら	P-303 フェリハイドライト様物質による植物体由来のDOC吸着量：二村杏太郎（名古屋大学）ら	P-314 ヒノキ人工林30%間伐後5年間の林内雨量の経過：細田育広（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所関西支所）ら P-330 海岸防災林最前線における土壌改良後の植栽に最適な広葉樹種と密度：富田衣里（茨城県林業技術センター）ら
P-288 林床植生除去に対する森林土壌の窒素動態の中長期的な応答：福澤加里部（北海道大学）ら	P-304 土壌リン傾度分析で得たコナラ細根ホスファターゼ分泌によるリン獲得モデル：水上知佳（京都大学）ら	P-315 多雪地域にある釜淵森林理水試験地における積雪・融雪期の流出機構：久保田多余子（森林総合研究所）ら P-331 海浜におけるケヤキ植栽の生残と環境の関係：萩野裕章（森林総合研究所）ら
P-289 カラマツ根のポリフェノールと土壌窒素無機化速度との関係：戸田浩人（東京農工大学）ら	P-290 落葉分解に関与するクロサイワイタケ科菌類の代謝多様性：大園享司（同志社大学）ら	P-316 東京農業大学奥多摩演習林狩倉沢流域における降雨流出特性：佐藤貞紀（東京農工大学）ら P-332 播種工施工後初期の法面の緑化成績に影響を与える要因：玉田勝也（山梨県森林総合研究所）ら
P-291 市町村スケールにおける土層厚確率マップの作成：山下尚之（国立研究開発法人 森林研究整備機構 森林総合研究所）ら	P-292 用いるDEM範囲が深層学習による火山灰土壌の分布推定に及ぼす影響：今矢明宏（国立研究開発法人森林研究・整備機構）ら	P-317 皆伐後の森林回復過程における融雪期の流出—釜淵森林理水試験地での解析—：阿部俊夫（森林総合研究所）ら P-333 海岸防災林において異なる客土方法で植栽した広葉樹の初期成長：小森谷あかね（千葉県農林総合研究センター森林研究所）ら
P-293 木質燃焼灰施用後初期のスギ新植林分の土壌物理性：山田毅（国立研究開発法人 森林研究・整備機構）ら	P-292 用いるDEM範囲が深層学習による火山灰土壌の分布推定に及ぼす影響：今矢明宏（国立研究開発法人森林研究・整備機構）ら	P-318 日本の森林域を対象とした水資源賦存量の変動特性の解析：澤野真治（森林研究・整備機構 森林総合研究所 北海道支所）ら P-334 熱赤外画像により特定された河道沿いの湧水分布と漂流水量水質変動の関係性：峰重乃々佳（京都府立大学）ら
P-293 木質燃焼灰施用後初期のスギ新植林分の土壌物理性：山田毅（国立研究開発法人 森林研究・整備機構）ら	P-293 木質燃焼灰施用後初期のスギ新植林分の土壌物理性：山田毅（国立研究開発法人 森林研究・整備機構）ら	P-319 SWATを用いた山地森林流域における流出量の再現：今村直広（森林総合研究所）ら P-335 堆積岩山地における土壌透水性分布と降雨流出に関する研究：柳井満太郎（京都大学大学院）ら
P-293 木質燃焼灰施用後初期のスギ新植林分の土壌物理性：山田毅（国立研究開発法人 森林研究・整備機構）ら	P-293 木質燃焼灰施用後初期のスギ新植林分の土壌物理性：山田毅（国立研究開発法人 森林研究・整備機構）ら	P-320 森林流域における漂流水のNO ₃ -濃度形成に与える基岩地下水の影響：小田智基（森林総合研究所）ら P-336 基岩地下水の考慮で分布型流出モデルの挙動はどう変わるのか？：亀山敬顕（東京大学大学院）ら

研究発表題目 (ポスター発表)

防災・水文	利用	動物・昆虫
P-337 Effects of non-commercial thinning on runoff characteristics in a dense Japanese cypress plantation: Ibtisam BintMohd Ghaus (東京大学農学生命科学研究科) ら	P-351 林道台帳表示アプリケーションの開発: 白澤純明 (森林総合研究所) ら	P-369 多様な林分におけるドローンLiDARによる地面検出技術の開発: 大西信徳 (京都大学) ら
P-338 溶出実験による風化花崗岩山地の地下水・深流水のシリカ濃度形成機構の検討: 田中未涼 (京都府立大学) ら	P-353 地形条件を考慮した路網デザインツールの開発: 金子峻亮 (東京大学) ら	P-370 森林作業道検出におけるセマンティックセグメンテーション手法の比較: 有木賢吾 (国研 森林研究・整備機構 森林総合研究所)
P-339 コナラ二次林における樹幹流中の溶存有機炭素と樹木特性との関係解析: 寛優祐 (豊田工業高等専門学校) ら	P-354 異なるバックホウによる路体締固め度の比較: 和多田友宏 (岐阜県森林研究所) ら	P-371 樹種別データセットを用いた樹木検出モデルの性能評価: 柳原士郎 (富山大学大学院) ら
P-340 樹皮の形状及び化学的特性によるイオン吸着への影響: 加藤俊空 (東京農工大学) ら	P-355 クラフトバンドを用いたのり面保護工の機能評価: 矢野和弘 (東京農業大学) ら	P-372 森林域における太陽光パネルの検出: 西本里美 (株式会社パスコ) ら
P-341 エルニーニョ・南方振動がボルネオ熱帯雨林の炭素・水循環に与える影響: 高村直也 (東京大学大学院) ら	P-357 作業道における枝葉を用いた法面保護工の検討: 菊池智弘 (東京農業大学) ら	P-373 2019年、2020年の林業労働災害の特徴: 猪俣雄太 (森林総合研究所) ら
P-342 コナラの着葉期及び落葉期の樹幹流下量に影響を与える樹木特性因子の検討: 青山周平 (豊田工業高等専門学校専攻科) ら	P-358 作業道の路盤強化における木灰の活用: 中田美祈 (東京農業大学) ら	P-374 携帯圏外の森林でも使える救助要請システムにステークホルダーが感じた価値: 小池達也 (一般社団法人よたか総合研究所) ら
P-343 幼齡カラマツ人工林における蒸発散の特性: 太田原芽久美 (東京農業大学) ら	P-359 緩衝材の違いによるヘルメット内温熱環境: 下刈り作業者の場合: 松澤美緒 (東京農業大学) ら	P-375 南八甲田山系備ヶ峯広葉樹林の新緑期森林環境色彩: 松村哲也 (信州豊南短大・大大学院)
P-344 Seasonal and Radial Variations in Stem Sap flux Density for Four Deciduous Broad-leaved Species: Faryzan Qistan (Shizuoka University) ら	P-360 Detection of vulnerable sites for logging road construction using GIS in Guadalcanal, Solomon Islands: Chacha Trevor (三重大学) ら	P-376 ヒノキ林におけるかかり木が残存立木間を通過する際の通過仕事: 松本武 (東京農工大学)
P-345 降雨の将来予測データを用いた土砂災害危険度分布の変化の検討: 福田幹 (京都大学) ら	P-361 森林作業道の切土高と崩土の関係: 日田寿生 (岐阜県森林研究所) ら	P-377 フォワード集材における作業員の労働負担: 中田知沙 (国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)
P-346 全国のダム貯水池における降雨特性と流出流量の関係: 宮崎仁 (東京農工大学) ら	P-362 群馬県における過去19年間の林道災害分析: 有賀一広 (宇都宮大学) ら	P-378 フェラーバンチャザウルスロブによる林業労働作業の心身の疲労の計測: 中野喜秀 (福島大学) ら
P-347 森林流域における50年間の土砂流出量変動と近年の増加要因の推定: 島田康平 (京都府立大学) ら	P-363 エンドレスタイラー式架線による広葉樹集材作業中の索張力について: 伊藤崇之 (森林総合研究所) ら	P-379 植栽器具の違いによる植栽作業効率および作業姿勢の評価: 亀山翔平 (東京農業大学) ら
P-348 2018年北海道胆振東部地震後の崩壊地における植生回復: 鈴木愛海 (石川県立大学) ら	P-364 タワーヤーダゲ上げ荷集材における集材可能範囲の抽出手法の開発: 大岩葉月 (京都府立大学) ら	P-380 魚沼市大白川地区のブナ間伐作業による伐採木のカスケード利用: 齋藤智之 (森林総合研究所) ら
P-349 海岸砂丘地におけるクロマツ保護樹の環境緩和効果: 小林直登 (鳥取大学) ら	P-365 GISを用いた簡易架線集材可能範囲の抽出手法の開発: 木野朗斗 (京都府立大学) ら	P-381 強度に基づく原木流通・立木段階での原木強度推定: 原田善一 (京都府立大学大学院) ら
P-350 北海道胆振東部地震による崩壊斜面での植生回復箇所の時空間的分布と特徴: 八十八川伊織 (東京農工大学) ら	P-366 ゴムクローラ式クラムハンクススキップの短幹集材兼用型への改造: 吉田智佳史 (森林総合研究所) ら	P-382 高知県におけるニホンジカによる食害とウバメガシの成長量の関係: 端理登 (高知大学) ら
	P-367 電動苗木運搬車の作業性向上を目的とした電動アウトリガの開発: 山口浩和 (森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら	P-397 モミの落葉被害をもたらす食害性昆虫モミハモグリソウムシの生活史: 綾部慈子 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 東北支所) ら
	P-368 低コストな土圧の多点同時計測システムの開発: 鈴木紗彩 (東京農工大学) ら	P-398 菌床シイタケの栽培施設内における害虫ナガマドキノコバエ類の空間分布: 片桐奈々 (岐阜県森林研究所)
		P-383 効果的なクマ剥ぎ防除のための忌避剤塗布方法: 柳澤賢一 (長野県林業総合センター) ら
		P-399 針葉樹人工林におけるアリ類の営巣する切株の条件: 小池伸介 (東京農工大学) ら
		P-400 山台湾の広葉樹植栽地における地表排他性甲虫多様性の推移: 佐野哲也 (東北工業大学)
		P-401 東南アジア熱帯多雨林で採集された枯死木依存性ゴミムシダマシ科甲虫: 山下聡 (森林総合研究所) ら
		P-402 徳之島の鳥類の繁殖分布と森林環境との関係: 八木橋勉 (森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら
		P-403 ニホンジカによるツツジ科小低木4種の枝葉・果実利用: 浅間山高山帯の事例: 新井祥 (長野大学) ら
		P-404 奥秩父山地におけるシカの生息地選択と人間活動に対する行動反応: 玉木麻香 (千葉大学) ら
		P-405 同所的に生息するキョンとニホンジカの行動形質の比較: 上野大輔 (東京大学) ら
		P-406 ノウサギの生息密度と植栽木被害によるカシノナガキクイムシの駆除効果: 伊藤昌明 (地独) 青森県産業技術センター 林業研究所) ら
		P-407 日本大学藤沢演習林におけるナラ集団枯損の被害状況: 神賀拓斗 (日本大学) ら
		P-408 都市緑地における3年間のナラ枯れ被害の空間動態: 加藤俊空 (東京農工大学大学院) ら
		P-409 寄主・非寄主への飛来着地から探るカシノナガキクイムシの寄主探索行動: 辰巳賢史郎 (京都大学大学院) ら
		P-410 関東地方におけるカシノナガキクイムシの遺伝的由来: 飯塚早紀 (宇都宮大学大学院) ら
		P-411 Screening and insecticidal mechanism study of <i>Bacillus thuringiensis</i> Cry toxins against pinewood nematode: 郭雅潔 (東京大学) ら

研究発表題目（ポスター発表）

	微生物		特用林産
P-415 沖縄県久米島に侵入したマツ材線虫病 - 初期防除と今後の課題 - : 亀山統一 (琉球大学) ら	P-431 Screening candidate genes and exploring their functions related to ectomycorrhizal formation in <i>Populus tomentosa</i> : 劉穎 (東京大学) ら	P-447 スギ細根由来の内生菌のプロテアーゼ活性とスギ実生の生育に及ぼす影響: 大塚理香子 (三重大学) ら	P-452 ミキサー処理によるウルシ種子の発芽促進効果: 土屋慧 (青森県産業技術センター林業研究所)
P-416 3年間にわたる外生菌根菌の成長菌系群集モニタリング: 小泉敬彦 (東京農業大学) ら	P-432 Interaction between ecto- and arbuscular mycorrhizal fungi affecting mycorrhizal formation in <i>Populus tomentosa</i> : Kosolwattana Phobthum (東京大学) ら	P-448 広葉樹菌根圏領域の違いが根圏バクテリア群集に及ぼす影響: 山本航 (東京農業大学) ら	P-453 ウルシ内樹皮からの漆液滲出量の日変動とその要因: 二社谷悠太 (京都大学) ら
P-417 日本産白トリュフ・ホンセイヨウシヨウロの系統地理と集団遺伝: 木下晃彦 (森林総合研究所) ら	P-433 Identifying genes regulating ectomycorrhizal formation from the natural variation of <i>Cenococcum geophilum</i> : 孔德寧 (東京大学) ら	P-449 天然更新と単一種植栽の違いが土壌分解系に与える影響: 竹内理絵 (横浜国立大学大学院) ら	P-454 静岡県産きのこの GABA 含有量について: 中田理恵 (静岡県農林技術研究所森林・林業技術センター)
P-418 日本各地のサクラ類から分離されたこぶ病菌の多様性: 石原誠 (森林総合研究所)	P-434 Do microRNA156a/168a regulate mycorrhizal formation in <i>Populus tomentosa</i> ?: 岡部信 (東京大学)	P-450 外国原産果樹に加害した養菌性キクイムシと変色部から検出された菌類: 宮越望 (神戸大学大学院) ら	P-455 PicoGene を用いて「現場で」「迅速に」マツタケシロをマッピングする: 黒河内寛之 (東京大学大学院) ら
P-419 ナナカマドの胴枯病について: 服部友香子 (森林総合研究所) ら	P-435 口永良部島火山泥流跡地に更新したクロマツ実生の外生菌根菌群集: 石川陽 (東京大学大学院) ら	P-451 クマ剥ぎによるヒノキ被害部の主要腐朽菌と拮抗菌の選別: 戴健平 (東京大学大学院) ら	P-456 中部地方の山村における移住者と出身者の山菜等の利用・交換パターン: 古川拓哉 (森林総合研究所) ら
P-420 日本産ブナ科樹木に対する <i>Phytophthora castaneae</i> の病原性: 市原優 ((国研) 森林機構 森林総合研究所関西支所) ら	P-436 日本産ゴヨウマツの外生菌根菌群集構造: 阿部寛史 (東京大学) ら		P-457 組成の異なるクロモジ精油の抗菌活性の比較: 甘粕瑞季 (養命酒製造株式会社) ら
P-421 北茨城市小川群落保護林に生息する樹木疫病菌: 升屋真人 ((国研) 森林研究・整備機構・森林総合研究所) ら	P-437 屋久島のスギ天然林における実生と成木の細根形態と菌根形成: 小島直也 (三重大学大学院) ら		
P-422 日本におけるマツ褐斑葉枯病菌の遺伝的多様性と交配型: 秋庭満輝 (森林総合研究所) ら	P-438 都市近郊の広葉樹二次林における外生菌根及び子実体の種組成: 高田昇吾 (東京農業大学) ら		
P-423 ヤマザクラ果実から分離された <i>Taphrina</i> 属菌: 長谷川絵里 (森林総合研究所 多摩森林科学園) ら	P-439 日本のチョウセンゴヨウ林における外生菌根菌群集: 立田悠士 (東京大学) ら		
P-424 北海道のカラマツ衰退林から分離されたナラタケ属菌: 和田尚之 (北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場) ら	P-440 ミヤマハンノキの外生菌根菌群集構造: 藤井恵理奈 (東京大学) ら		
P-425 モミサルノシカケ接種 20 年後のトドマツにおける腐朽進展状況: 山口岳広 (森林総合研究所)	P-441 殺菌処理が林床植物イチャクソウの菌根菌群集と炭素獲得に及ぼす影響: 榮航太郎 (三重大学) ら		
P-426 クマ剥ぎによるスギ被害木の腐朽状況と検出された腐朽菌種: 鳥居正人 (森林総合研究所) ら	P-442 海岸盛土がクロマツの外生菌根菌群集と酵素活性に及ぼす影響: 瀬川あすか (三重大学) ら		
P-427 非赤枯性潰瘍病の病原菌によるスギ木片の腐朽に及ぼす含水率の影響: 岩澤勝巳 (千葉県農林総合研究センター)	P-443 複数種の外生菌根菌を同時培養した際の菌糸の挙動: 奈良輪歩美 (東京農業大学) ら		
P-428 北海道のカラマツ人工林の衰退とその要因 - ならたけ病、キクイムシ、野鼠 - : 徳田佐和子 (北海道立総合研究機構 林業試験場) ら	P-444 国内から採集した広葉 <i>Tomentella</i> 属菌の分子系統解析: 長棟光祐 (鳥取大学) ら		
P-429 スギ林とコナラ林の土壌と樹種の入替えが土壌生物群集に与える影響: 北上雄大 (三重大学大学院) ら	P-445 エゾマツの発芽阻害に関与する菌類は標高によって異なる: 岩切結佳 (東京大学大学院) ら		
P-430 Exploring the functions of miR164c/172a/319a/396a in the ectomycorrhizal formation of <i>Populus tomentosa</i> : 陶媛勲 (東京大学) ら	P-446 スギ林の異なる基質が根圏におけるアンモニア酸化アーキア群集に与える影響: 大上崇 (三重大学) ら		

研究発表題目（ポスター発表）

T1. 生物多様性保全と森林管理	T2. 森林の放射能研究		T3. 樹木根の成長と機能
P-458 絶滅危惧種オキナワセッコクの自生地と森林環境：阿部真（森林総合研究所）ら	P-466 放射性物質高濃度汚染地域における森林内の放射性セシウムの分布：阪田匡司（森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	P-482 福島県の森林における土壌含水率の変化による空間線量率の変化のモデル化：中西美夕（筑波大学大学院）ら	P-483 中間温帯針広混交林における樹木の吸水深度特性：勝浦佟（名古屋大学）ら
P-459 保持林実証実験地における源流域の産生動物相一伐採前後の推移：長坂晶子（道総研林業試験場）ら	P-467 放射性セシウムに汚染された森林における植栽木や実生の面移行係数：三浦覚（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら		P-484 解剖特性による細根寿命の推測：原生木部数は土壌深度に沿って変わるのか？：細井彩（信州大学）ら
P-460 マダガスカル北西部の熱帯乾燥林：石英質白砂上の原生林の火災脆弱性：北島薫（京都大学）ら	P-468 福島県におけるスギ・ヒノキ・アカマツ樹幹部の中長期的な ¹³⁷ Cs濃度変化：山村充（国土防災技術株式会社）ら		P-485 スギ根系における土壌深さ別の細根呼吸速度と形態特性：柳瀬亮太（名古屋大学）ら
P-461 文献情報と植生図に基づいた流域内の森林棲鳥類の個体数推定とシナリオ分析：橋本啓史（名城大学）ら	P-469 樹皮・木材中の ¹³⁷ Cs濃度の2011年から2022年にかけての変化傾向：大橋伸太（森林総合研究所）ら		P-486 福島県におけるスギ林細根中のCs-137の深度分布に対する転流の影響：井口啓（筑波大学）ら
P-462 九州山地における防鹿柵内外でのブナ樹冠下環境と土壌微生物相の違い：榎井優樹（宮崎大学）ら	P-470 安定同位体Csを利用したコナラ立木への ¹³⁷ Cs移行経路の検討：小川秀樹（福島県林業研究センター）ら		P-487 兵庫県南部のアカマツ二次林における二つのモデルでの斜面崩壊防止力の評価：今若舞（兵庫県立大学）ら
P-463 針広混交林における30年の時間変化と植生の空間分布に対する鳥類の反応：柴山潤太（名古屋大学）ら	P-471 コナラの事故後萌芽更新木と直接汚染木の放射性セシウム濃度比較：坂下渉（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら		P-488 非構造性炭水化物を介した樹木細根機能の季節変化：山岳標高差に対する検証：橋本裕生（信州大学）ら
P-464 針葉樹人工林の小面積皆伐による異齢林施業が下層の樹木分布に及ぼす影響：赤池友樹（宮崎大学）ら	P-472 福島県田村市都路地区広葉樹林におけるセシウム分布：井上美那（国土防災技術株式会社）ら		P-489 カラマツ苗木の根切りで代替した直根の伸長成長に及ぼす土壌硬度的影響：石田将一朗（北海道大学農学院）ら
P-465 林冠ギャップにおける光環境の不均質性が更新木の多様性に及ぼす影響：田邊しずく（琉球大学）ら	P-473 福島原発事故後に植栽したコナラの放射性セシウム濃度：齋藤直彦（福島県林業研究センター）ら		P-490 根滲出速度は土壌深度に沿って変化するのか？：針葉樹3種を用いた検証：坂下凜（信州大学）ら
P-466 落葉除去による除染がスギの放射性セシウム吸収に及ぼす影響：大前秀美（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	P-474 落葉除去による除染がスギの放射性セシウム吸収に及ぼす影響：大前秀美（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら		P-491 現地採取したヒノキ脱落根の量及び形態の月変化—2種類の現地培養法から—：黒見信輔（名古屋大学大学院）ら
P-467 震災後10年間における落葉堆肥化にともなう放射性Cs濃度および量の変化：市川貴大（くまの木里心応援団）ら	P-475 震災後10年間における落葉堆肥化にともなう放射性Cs濃度および量の変化：市川貴大（くまの木里心応援団）ら		P-492 福島県川俣町の森林における樹木根中放射性セシウムの経年変化：高橋純子（筑波大学）ら
P-468 カリウム施肥がヒノキ植栽木の成長とセシウム吸収におよぼす影響：長倉洋子（森林総合研究所）ら	P-476 カリウム施肥がヒノキ植栽木の成長とセシウム吸収におよぼす影響：長倉洋子（森林総合研究所）ら		P-493 土壌圧縮がカラマツ苗木の成長と根の動態に及ぼす影響：遠藤いず貴（兵庫県立大学）ら
P-469 生葉・枯死葉・水生昆虫間のセシウム ¹³⁷ 濃度変化：金指努（福島大学）ら	P-477 生葉・枯死葉・水生昆虫間のセシウム ¹³⁷ 濃度変化：金指努（福島大学）ら		P-494 異なる根系型を持つ3樹種の根系構造と引き倒しモーメント：藤堂千景（兵庫県立農林水産技術総合センター）ら
P-470 ワラビの地上部と地下部における ¹³⁷ Cs量の季節変化について：長峯秀和（福島県林業研究センター）ら	P-478 ワラビの地上部と地下部における ¹³⁷ Cs量の季節変化について：長峯秀和（福島県林業研究センター）ら		
P-471 菌根菌によるセシウム吸収および溶出能力の評価：小河澄香（森林総合研究所）ら	P-479 菌根菌によるセシウム吸収および溶出能力の評価：小河澄香（森林総合研究所）ら		
P-472 シイタケ原木におけるCs-137の分布状況と子実体への移行の関係：小林勇介（福島県林業研究センター）ら	P-480 シイタケ原木におけるCs-137の分布状況と子実体への移行の関係：小林勇介（福島県林業研究センター）ら		
P-473 斜面土層地下水によるCs-137移行フラックスの推定と表流水への影響評価：庭野佑真（筑波大学）ら	P-481 斜面土層地下水によるCs-137移行フラックスの推定と表流水への影響評価：庭野佑真（筑波大学）ら		

企画シンポジウム

S1. マツヘリカメムシ、マツ類を被食する新規外来種の急速な分布拡大とその生態について

Impact of a new invasive insects, *Leptoglossus occidentalis*, on Japanese pine trees and its ecological characteristics

コーディネーター：久米篤（九州大学）

3月26日 9:00～12:00 会場 Room 1

マツヘリカメムシ (*Leptoglossus occidentalis*) は1910年に北アメリカにおいて世界で初めて発見され、現在では、様々なマツ類の種子を摂食する世界的な森林害虫の一つとなっています。2008年に日本への侵入が確認され、現在では約30の都道府県で目撃・採取例が確認されていますが、本種の日本における生態や、針葉樹に与えている被害状況などはほとんど明らかになっていません。カメムシ類による樹木被害は古くから認識され、カメムシが吸汁した球果の胚珠は正常に発育せず、発芽率が大幅に低下することが知られています。スギ・ヒノキ採種園におけるチャバネアオカメムシの被害や防除については様々な研究が行われ、対策も進められてきました。しかし、被食された個体であっても、葉や球果などの外観にはほとんど影響が現れないため、見た目からはその被害程度を認識することは困難です。そのため、健全な種子と吸汁され発芽能力を失った種子を識別することは、カメムシの被害状況把握や採種園運営の観点から非常に重要な技術となります。カメムシ類の成長には腸内共生細菌の存在が不可欠であり、チャバネアオカメムシの日本野外集団では、環境細菌から必須共生細菌への進化が現在進行中であることが推定されています。また、腸内共生細菌は、ホストであるカメムシの農薬耐性にも大きく影響することが判明しています。そこで、本シンポジウムでは、マツヘリカメムシの野外生態と森林害虫としての影響について、その野外生態から飼育、共生細菌、防除対策まで、幅広い角度から議論します。予定している演題は以下の通りです。

マツヘリカメムシがクロマツ種子生産に及ぼす潜在的な影響

カメムシ類が針葉樹類の種子生産に及ぼしている影響

熊本県九州育種場におけるマツヘリカメムシの個体群動態

マツヘリカメムシと腸内細菌の共生関係

マツヘリカメムシの採餌動態

マツヘリカメムシの春の行動様式

S2. 環境変化にともなう樹林地生産性に関わる被食防衛

Forest productivity affected by plant defense capacity under changing environments

コーディネータ：渡辺誠（東京農工大学），小池孝良（北海道大学）

3月26日 13:00～16:00 会場 Room 4

産業革命以降，化石燃料の消費増大に代表される人間活動によって，森林を取り巻く環境は劇的に変化している。気候変動に伴う降水量の変化，大気 CO₂ 濃度の上昇，窒素や硫黄などを含んだ酸性物質の沈着量の増加，オゾンや PM_{2.5} などの大気汚染物質が森林生態系に与える地球規模の影響が懸念されている。このような環境変化は，光合成活性の低下，土壌の養分・水分の利用性や病虫害に対する抵抗性といった様々なプロセスに複雑な変化を与え，森林の生産性や分布に影響を与える。そして，そのフィードバック作用として，森林からの養分・水分および揮発性有機化合物などの放出特性も変化する。数十年以上かけて蓄積される森林バイオマス，環境資源としての森林の持続的利用，そして流域レベルでの物質循環の将来予測を行う上で，これら人為的な環境変化と森林・樹木における相互作用の理解は避けて通ることができない重要な課題である。本シンポジウムでは樹木生理生態学を基礎として，環境に関わるモニタリング，実験的研究およびフィールド調査というように幅広い分野にわたって森林に対する環境変化の影響に関する最新の知見を樹木の被食防衛に注目して議論するとともに，出版物の紹介も行なう。特に今回は樹木の生産性に影響の大きい植食性昆虫による食害が，環境変化によってどのように変化するのかに注目した講演を予定する。

S3. 人材育成をみすえた森林科学の専門教育の連携・つながりを考える –行政，教育機関，地域– Collaboration in Specialized Education on Forest Science for Human Resource Development: Government, Educational institutions and Local communities

コーディネータ：井上真理子（森林総合研究所），枚田邦宏（鹿児島大学），
杉浦克明（日本大学），東原貴志（上越教育大学）

3月26日 9:00～12:00 会場 Room 2

森林科学の専門教育について，第132，133回日本森林学会大会の学会企画シンポジウム（「技術者教育からみた4年制大学教育の現状」2021年，「4年制大学における森林科学教育の現状と今後の方向—技術者教育の視点から」2022年）が開催された。大学では，学科改組などにより森林科学の専門分野を総合的に履修できる学科等が減っており，林業職など技術系公務員の求人増に対して応募者が少ないことなどが報告された。森林科学の専門教育について，大学間や産学官での連携した取り組みが求められるといえた。

本シンポジウムでは，これからの森林科学の人材育成に関わる専門教育のあり方について，「連携・つながり」をキーワードに取り上げ，各地での取り組みをふまえながら検討を行っていききたい。専門教育について，これまでの大会企画シンポジウム（第127回「技術教育，専門教育としての森林・林業教育

「学校教育を中心に」2016年、第128回「森林・林業分野の人材育成」と教育研究機関の役割－新しい林学を求めて」2017年）などを通じて、中学校の技術科教育（木工）、農業高校の森林・林業教育、大学の状況も報告されてきている。大学に加えて高等学校や中学校でも、専門性を持つ指導者の養成や確保、教育内容の検討が必要な状況が報告されている。

当日は、さまざまな校種で関係機関などと連携した取り組みを行っている研究者や実践者からの報告を予定している。専門教育の現況をふまえて、専門教育の改善や人材育成の方向性について議論を深めていきたい。森林科学の教育に関心のある研究者や、人材育成に関心のある実践者や行政職員の方を含めて、多くの方にご参加頂き、森林科学の根幹をなす専門教育の可能性を追求していく機会としたい。

S4. 「森林サービス産業」：エビデンス収集から社会実装に向けた研究開発への転換期に森林科学はどのように貢献できるのか？

“Forest-related Service Industry”： How can forest science contribute to the transition from evidence collection to R&D for social implementation?

コーディネータ：高山範理（森林総合研究所），八巻一成（森林総合研究所），
平野悠一郎（森林総合研究所），木俣知大（東京学芸大学）

3月26日 13:00～16:00 会場 Room 3

「森林サービス産業」は、健康・観光・教育産業への貢献を柱として2019年2月に林野庁等が提唱し、2021年度から林野庁補助事業として、企業の健康経営に資するためのエビデンスの取得がはじまるなど、これまで健康分野を中心に支援が進められてきた。事業開始から約2年が経過し、成果も一定程度蓄積し、各種フォーラムにてモデル地域のエビデンス報告が行われるなど、関係者による活発な取組紹介が行われてきた。

他方、令和3年6月に閣議決定された「森林・林業基本計画」を皮切りに、各種行政計画に「森林サービス産業」の位置付けが進む中で、徐々に社会的な認知が広がってきた。また、林野庁が設置した「forest style ネットワーク」には320を超える企業・団体等の参画し、企業と地域、関係者を結ぶプラットフォームとして順調に発展しつつあり、長野県や岐阜県でもローカルなプラットフォームづくりが進んでいる。さらに、「林業イノベーション」、「デジタル林業戦略拠点」や「農山漁村発イノベーション」等の諸施策においても、異分野連携による研究開発の要素として「森林サービス産業」等が位置付けてきている。

こうした中で、これまでのエビデンスの取得を中心した取り組みから、それらを異分野連携による社会実装や、地域経済・地域づくりへの活用に向けた研究開発への要請が高まっている。また、同時に健康分野以外の観光・教育等の分野にも耳目が集まりつつあるが、森林学会ではあまりこうしたことの情報共有がなされていない。

そこで、学会員と「森林サービス産業」を取り巻く状況や研究開発の視点からの異分野連携に関わる施策の動向を共有することを目的とした企画シンポジウムを開催したい。本シンポジウムでは、まず登壇者の報告を通じて、「森林サービス産業」の全体像や施策の状況、これまでの健康分野におけるエビデ

ンス取得等や観光・教育分野の取り組み、その社会的・学術的な位置づけや意義について整理・共有する。それを踏まえ、登壇者とコメンテータおよび参加者を交えて、森林科学分野において、今後産官学民が連携・協働して、異分野連携で「森林サービス産業」を社会実装していくために、どのような研究開発が必要なのか、また学术界の役割等を総合的に議論する。

S5. ポスト 2020 生物多様性枠組 (GBF) における保全と利用の相克と科学政策対話の役割

Conservation and Sustainable Use in Era of Post-2020 Biodiversity Framework: Designing Map, Indicators and Incentives as Boundary Objects

コーディネータ：香坂玲（東京大学），栗山浩一（京都大学）

3月26日 9:00～12:00 会場 Room 3

2022 年末には、ポスト 2020 生物多様性枠組 (GBF) が生物多様性条約の第 15 回締約国会議(COP15)において採択される予定となっている。なかでも 2030 年までに 30%程度のエリアについて森林を含む陸域と沿岸・海域までを一体的に保全をすること、いわゆる「30 by 30」は大きな目標となる。主に国家など公的な機関が定める保護地域の保全デザインに加え、先住民の居住地区、社有林、社叢林等を含む民間取組等と連携した自然環境保全 (OECMs) が注目される。一方で公的な指定による保全区域と OECMs を巡っては共通・連続する領域と独自の改善手法、課題が見込まれる。

そのため、本企画シンポジウムでは、対象地域は指定を伴う公的なもの（国際認定のパーク・遺産制度、国立公園等）及び萌芽期にある OECMs などを想定する。主に日本国内の生物多様性との関係性が深いエリアを想定するが、国際比較も歓迎する。人口縮退、災害、再生可能エネルギーとの土地利用の競合、エビデンスやデータに基づいた分析が政策や地域の合意形成にどのように寄与ができるのかを主眼としている。議論には、森林を含む自然環境と人の移動に関するデータ、保全や持続的な利用に向けたインセンティブの設計等を含める。具体的には利用者の携帯電話等の利用者側のビッグデータと、自治体の森林の保全・利用に関しては、森林経営管理制度、ゾーニング、森林環境譲与税などを含む制度設計に関する議論も試みる。専門家と利害関係者との協働を実現するツールであるバウンダリー・オブジェクトとしての地図・指標・インセンティブの活用と情報の提供と整理も行なう。

発表内容としては、①コーディネータ（香坂玲、栗山浩一）による趣旨説明の後、②国際認定制度（GIAHS・MAB）に関連して、林浩昭（国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会）が国東半島宇佐地域における事例、③鈴木（名古屋大、東京大）らが南アルプスのケースを発表する。方法論・データ分析では、④久保雄広（国立環境研究所）らが観光行動についてのビッグデータ分析、⑤藤木庄五郎（株式会社バイオーム）らがスマートフォンを活用した市民参加型生物データ収集、⑥内山愉太（神戸大）らが野生鳥獣管理やパーソントリップ調査について発表する。ゾーニングに関連して、⑦大澤剛士（東京都立大）が農地の OECM 候補に関して推定、⑧高取千佳（九州大）らが衛星画像活用の農林地の管理状況評価、⑨山本一清（名古屋大）らが航空機 LiDAR 活用の森林管理状況把握について発表する。森林環境税・森林経営管理制度では、⑩畠田栄樹（産業技術総合研究所）がナッジの活用、⑪松岡光（理化学研究所）らが地方議会議事録分析、⑫岸岡智也（金沢大）らが自治体における野生動物保護管理の事業デザインについて発表予定となっている。

S6. 山地森林環境の長期的な変化と、それらが水・土砂・流木の流出に及ぼす影響をふまえた災害予測の可能性

The effect of long-term changes in mountain forest environment on water, sediment and woody debris transport and possibility of disaster prediction based on those knowledges

コーディネータ：浅野友子（東京大学），内田太郎（筑波大学）

3月26日 9:00～12:00 会場 Room 8

人が身近な森の資源に頼って暮らしていた100年前には多くの里山は今より荒廃し、毎年の降雨による表土の侵食速度は現在に比べて大きかったと考えられる。一方、近年は、森林資源があまり使われなくなり森林や下層植生が回復し、表土は年々厚さを増し、山地流域内では土量と材積量が増加しつつある。つまり、里山の多くは今、この100～200年では経験したことのない、豊かな植生と厚い土層に覆われている。その結果、水・土砂移動の形態が、「表面流・表層浸食型」から「地中流・崩壊型」へ変化したことが指摘されているが（塚本2002）、毎年起こる表層浸食に比べて単発的に生じる崩壊の予測は難しい。さらに近年、気候変動の影響があらわれ始め、今後いっそう豪雨の頻度や強度が増すことが予想されている。このように場の条件と災害の誘因となる外力のいずれもが変化しており、災害の生じ方や対策が従来と異なってくると考えられる。一方で、現在の災害対策技術は過去の災害の経験をもとにしている部分が多くあり、将来の災害を予防するためには、山地森林環境の歴史的な変化を理解し、それらが水・土砂・流木の流出に及ぼしてきた影響を考慮した上で将来を予測する必要がある。

第132回、133回日本森林学会で行った同じテーマの企画シンポジウムでは、時間の流れの中で山地環境の変化を理解した上で、山地の水や土砂の流出機構を解明し、災害予測の現状・課題を考察することに焦点を当て、主に江戸時代以降に大きく変化した山地・森林、土壌やそれらを取り巻く社会や災害の変遷を振り返った。その結果、山地森林環境が成立した歴史的な経緯は多様であることを認め、個別に理解することが重要であること、過去を知り正しく整理・分析することは容易ではないが、様々な資料を分析するなど視野を広げればその方法があることがわかってきた。今年度も同じテーマでシンポジウムを行い、過去の現象理解を深め、災害予測や今後の森林管理につなげる可能性をさぐる。

S7. 生理部門企画シンポジウム「光エネルギーの上手な利用」とポスター紹介

Tree Physiology Section Symposium “Wise use of photoenergy” and poster introduction

コーディネータ：則定真利子（東京大学），津山孝人（九州大学），斎藤秀之（北海道大学），
田原恒（森林総合研究所），小島克己（東京大学）

3月26日 9:00～12:00 会場 Room 4

講演会「光エネルギーの上手な利用」と生理部門のポスター発表の1分紹介とで構成する生理部門の企画シンポジウムを開催します。

生理部門では、個体から細胞・分子レベルまでの幅広いスケールの現象を対象に、多様な手法を用いて樹木の成長の仕組みを明らかにする研究に携わる方々の情報・意見交換の場となることを目指しています。従来の研究分野の枠組みにとらわれることなく、さまざまなスケール・手法で樹木の成長の仕組みの解明に携わる多くの皆様に、生理部門での口頭・ポスター発表にご参加頂くとともに、本シンポジウムにご参集頂きたいと考えております。

講演会では、植物の光エネルギー利用に注目し、生育の礎を作り出すのに不可欠でありながら、過剰にあると機能損傷をもたらす光エネルギーを植物が上手く利用する仕組みを見つめます。東京大学の矢守航さんに、光合成が巧みに光応答して個体の生育を支えている仕組みについてご講演頂きます。北海道大学の田中亮一さんに、常緑針葉樹が冬季に光合成機能を維持する仕組みについてご講演頂きます。九州大学の後藤栄治さんに、林床植物が葉緑体の細胞内での配置を変化させることで林床での光変動に適応している仕組みについてご講演いただきます。

講演会に引き続き、生理部門でポスター発表をされる方々に発表内容を1分間でご紹介いただきます。

生理部門では、必要に応じて大会のプラットフォームを補完する形で、口頭発表およびポスター発表に関する討論のためのオンラインスペースを用意することを検討しています。詳細については、生理部門の Facebook ページ（森林学会_生理部門/Tree_Physiology_JFS）やツイッター（@TreePhysiol_JFS）などで随時ご案内していきます。

公募セッション

T1. 生物多様性保全と森林管理

Biodiversity conservation and forest management

コーディネータ：山中聡（森林総合研究所）、山浦悠一（森林総合研究所）

3月26日 13:00～16:15 会場 Room 5

ポスター発表 P-458～P-465

森林の減少・劣化は世界規模で進行しており、森林生態系における生物多様性の保全とその持続可能な利用のための行動が必要とされています。日本の国土の約7割は森林に覆われていますが、人間活動による改変が少ない森林は限られており、原生林やそれらに依存する生物の生息地を維持することは重要です。また近年では、里山などで人間活動の衰退に伴う生物多様性の減少も懸念されています。その一方で、日本の森林の4割を占める人工林は各地で伐採が進み、林業の地域社会や経済への貢献が期待されています。これらの人工林は一般に生物多様性が低いことが知られていますが、管理の仕方によって多くの生物の生息地として機能するとも指摘されています。森林と林業の社会的価値や持続可能性を向上させていくために、日本でも生物多様性の保全に配慮した森林の管理が、今後より重要となっていくと考えられます。

生物多様性の保全に配慮した森林管理を行うためには、様々な分類群や林相（天然林や人工林など）、地域を対象とした生態学的研究や保全技術の開発や検証、集積が必要です。また、得られた知見を実際の森林管理に導入するためには、政策学や社会経済学など、様々な学問分野からのアプローチが必要とされます。

本セッションでは、森林生態系における生物多様性の保全という共通の課題を扱う研究の発表を募ることで、これまで異なるセッションで発表されてきた研究や研究者が集まる場を作りたいと考えています。研究対象とする生物多様性の階層（遺伝子、種、生態系）や空間スケール（林分、景観、流域など）、学問分野は問いません。発表形式は口頭発表とポスター発表の両方を対象とします。

当セッションは昨年に引き続き今回2回目の開催です。今後も当セッションを継続し、参加者の方々が取り組んでいる課題について情報を交換・議論し、理解を深め、生物多様性に配慮した森林管理の実践に寄与できる場を作りたいと考えています。

T2. 森林の放射能研究

Research on radioactivity in contaminated forests

コーディネータ：小松雅史（森林総合研究所）、大久保達弘（宇都宮大学）

3月26日 9:30～11:15 会場 Room 5

ポスター発表 P-466～P482

2022年2月よりロシア軍によるウクライナへの軍事侵攻が始まり、現在も続いています。チェルノブイリやザポリージャの両原子力発電所周辺での戦闘も起きており、放射性物質の飛散リスクが最も高まっていると言えます。一方で国内では、この戦争を契機としたエネルギー問題も生じており、震災以降に廃炉や新基準での点検によって利用が減少した原子力エネルギーの活用についても改めて注目が集まっています。

福島第一原子力発電所事故後、現在も続く森林の放射性セシウム汚染の動態について理解を深めることで、汚染による環境および社会への影響を緩和するための方策へとつなげることで、また将来起こりうる新たなリスクについても評価することが求められています。そのためには研究を継続し成果を国内外へ発信していくことが必要です。その一助となるべく、森林の放射能研究の公募セッションを今回も実施します。例年通り、口頭発表とポスター発表どちらの発表形式も可能とする予定です。課題や研究の切り口は多岐にわたります。幅広い分野から皆様の発表をお待ちしております。

T3. 樹木根の成長と機能

Development and function of tree roots

コーディネータ：平野恭弘（名古屋大学）、大橋瑞江（兵庫県立大学）、

野口享太郎（森林総合研究所）

3月26日 9:30～11:45 会場 Room 6

ポスター発表 P-483～P-494

公募セッション「樹木根の成長と機能」では、樹木根をキーワードに太い根から細い根まで、生態系レベルから細胞レベルまで、根と関連した多岐にわたる研究を公募し、報告対象といたします。本公募セッションでは、樹木根だけでなく、様々な境界領域分野との融合を目指します。研究内容に「根」に関する測定や事象があれば、葉や材をはじめとする樹木地上部に関する研究、土壌微生物や化学特性、緊縛力など土壌に関する研究、温暖化や酸性化といった環境変動に関する研究など、根以外を主な対象とする発表も広く歓迎いたします。また「根」を測定項目としたい会員向けに測定方法の共有も目的といたします。発表形式は口頭発表またはポスター発表とします。発表当日は、趣旨説明の後、口頭発表していただき、適宜発表間に討論時間を設け、最後に総合討論の時間を設ける予定です。趣旨説明では根研究学会の開催する根研究会の紹介、2022年7月に米国で開催された第8回国際樹木根会議における最新研究の紹介など樹木根研究の国際および国内動向を森林学会員に広く情報提供します。総合討論では、樹木根と境界領域分野との研究者間ネットワーク作りを促進するための討論も行います。

学会企画

学会企画1. 地方公設林業試験場とは何か? ～求む地域や大学との関わり～

コーディネータ：小山泰弘（国内研究機関連携担当理事，長野県林業総合センター）

井上真理子（企画担当理事，森林総合研究所多摩森林科学園）

共催：全国林業試験研究機関協議会（事務局：(地独)北海道立総合研究機構）

3月25日 16:30～18:30

会場：Room 8

主旨

昨年までの第132、133回大会では、四年制大学での森林科学教育に関するシンポジウムを開催しました（*1）。専門的人材育成に産学官連携の必要性が指摘されたことから、今大会では、都道府県で実施されている森林・林業の試験研究をテーマにシンポジウムを企画しました。

都道府県林業試験場（公設林試）は、地域の行政や現場ニーズを受けた応用研究を推進しています。全国林業試験研究機関協議会は、47都道府県の林業試験場等で構成されている組織です。公設林試では、行政職で都道府県に採用された後に研究職に配属される場合も多く、研究専門職との知名度は必ずしも高くないのが現状です。また、近年の研究体制の変化などからの課題も挙げられています。シンポジウムでは、公設林試の現状について話題提供と、今後の可能性について議論したいと思います。

本企画は、学会大会の公開シンポジウムに続いて開催します。研究者を目指す若手会員や、地域の応用研究に関心がある方など、多くのご参加をお待ちしています。

プログラム

司会：長野県林総合センター 小山泰弘

- 1) 公設林試の現状と課題 地方独立行政法人北海道立総合研究機構 森林研究本部 佐藤弘和
(全国林業試験研究機関連絡協議会事務局)
- 2) 都道府県行政と研究との関わり 山口県農林総合技術センター 山田隆信
- 3) 公設林試と大学教育との関わり 琉球大学農学部 谷口真吾
- 4) 大学と公設林試との関わり 鹿児島大学農学部 枚田邦宏
- 5) 総合討論：公設林試の可能性と課題

連絡先

- ・全国林業試験研究機関協議会事務局
(地独)北海道立総合研究機構 森林研究本部企画調整部企画グループ TEL (0126)63-4164 (内線 259)
- ・国内研究機関連携担当理事 長野県林業総合センター 育林部 TEL (0263) 52-0600 (内線 251)

(*1：日本森林学会誌 104 (5)「大学教育に関するシンポジウム開催報告」または林業経済研究所ウェブページ「各種事業. 1 調査・研究事業」を参照下さい。)

学会企画2. 大学での森林の学びや研究を知ろう－高校生と大学生との交流－

コーディネータ：太田祐子（中等教育連携推進担当理事，日本大学）
園原和夏（中等教育連携推進担当主事，日本大学）
司会：藤野正也（中等教育連携推進委員，福島大学）

3月27日（月） 12:15～14:00

会場：Zoom 開催（学会大会とは別のサイト）

事前申し込み制：申し込みを希望される方はこちら→ <https://forms.gle/FKqgfufJo23RK9Eb7>

（または右 QR コードから）のフォームにご記入の上、送信ください。

開催日が近づきましたら Web 会議（Zoom）の情報をお知らせします。

高校生ポスター発表校の方は申し込み不要です（後日お知らせします）。



この企画は、森林に関する研究発表を行った高校生の皆さんが、現役の大学生・大学院生とざっくばらんに情報交換できる場にしたいと思っています。

はじめに、ポスター賞受賞校の発表と表彰式を行います。続いて、現役大学生・大学院生との意見交換の場を設けます。大学で森林科学を学ぶことについて現役の学生に質問できるまたとない機会です。皆さんの進路の参考になる話が聞けるかもしれません。高校生の皆さんの積極的な参加をお待ちしております。

1. 高校生ポスター表彰式 森林学会会長より総評
2. 高校生と大学生・大学院生との意見交換

第10回 高校生ポスター発表 学校名・発表題目

表彰式などを3月27日(月)12:15～学会企画「大学での森林の学びや研究を知ろう－高校生と大学生との交流－」の中で行います。参加校の生徒の皆さんは上記の企画にご参加ください。

発表番号	学校名	発表題目
KP-01	山形県立村山産業高等学校	蔵王連峰地蔵山におけるオオシラビソ(アオモリトドマツ)の保全活動
KP-02	山形県立村山産業高等学校	スマート林業を活用した東熊野演習林、復活への道
KP-03	國學院大學栃木高等学校	ヒサカキ除去と森林の環境保全
KP-04	群馬県立尾瀬高等学校	群馬県武尊山登山道沿いの樹種分布調査
KP-05	群馬県立尾瀬高等学校	尾瀬国立公園戸倉地域におけるヤマネ調査
KP-06	群馬県立利根実業高等学校	ソバ殻と三番粉を活用したアラゲキクラゲの栽培実験
KP-07	チームアライグマ*	埼玉県における高校生のネットワークを活用したクビアカツヤカミキリ調査
KP-08	東京都立大泉高等学校	ツキノワグマの行動に影響を及ぼす自然環境要因は何か
KP-09	東京都立大島高等学校	地域資源を活用した商品開発
KP-10	東京都立科学技術高等学校	生分解性をもつ高吸水性樹脂の添加が植物の育成に及ぼす影響
KP-11	東京都立科学技術高等学校	林業家と観光客が共存する森林地帯活性化のための提案
KP-12	東京都立科学技術高等学校	サンプスギの葉の抽出物によるチャアナタケモドキへの影響と効果
KP-13	東京都立科学技術高等学校	林地残材処理における熱分解を利用したガス化プロセスの効率化
KP-14	東京都立国分寺高等学校	GPSを使ったカラスバトの生態解明への挑戦
KP-15	東京都立国分寺高等学校	音声コミュニケーションから探るカラスバトの生態について
KP-16	東京都立国分寺高等学校	FSC認証商品を推し進めるには
KP-17	浅野中学・高等学校	キノコが森林生態系の炭素収支に与える影響と土壌動物との関係
KP-18	浅野中学・高等学校	校内の山林を用いた炭素収支の経年変化と炭素固定機能の改善
KP-19	新潟県立新津高等学校	杉林下で生息するヒゴスミレの保全
KP-20	岐阜県立郡上高等学校	クヌギ育苗の研究 ～コンテナ苗とポット苗の比較～
KP-21	日生学園 青山高等学校	青山高等学校におけるシカの行動観察
KP-22	京都府立菟道高等学校	学校林のリターをつくるものは何か?
KP-23	京都府立菟道高等学校	動物は学校林のどの場所が好きなのか?
KP-24	大阪女学院高等学校	私たちと森林の在り方とは 人間が自然との共生を目指して
KP-25	鳥取県立米子東高等学校	鳥取県米子市の市街地における山の生態調査
KP-26	広島県立広島国泰寺高等学校	甲虫で里山の遷移の評価をしよう
KP-27	高知県立高知農業高等学校	上穴内演習林のICTを活用した森林資源調査と実測調査の比較
KP-28	熊本県立矢部高等学校	「林業のチカラ×ふくしの心」～ものづくりで地域の課題解決!～
KP-29	熊本県立南陵高等学校	地域資源を活用した木育活動の実践
KP-30	熊本県立南陵高等学校	「災害に強い森づくり」を目指した人吉・球磨地域における森林保水力の評価

*チームアライグマ(埼玉県立川越女子高等学校、埼玉県越谷北高等学校、埼玉県坂戸西高等学校、埼玉県所沢北高等学校、埼玉県蕨高等学校)

学会企画3. 留学・研修を通じて見えてくる多様な価値観や考え方

コーディネータ：久保田多余子（ダイバーシティ推進担当理事，森林総合研究所）

長谷川陽一（同主事，森林総合研究所）

久米朋宣（ダイバーシティ推進委員，九州大学）

新田響平（同委員，秋田県林業研究研修センター）

ダイバーシティ推進委員会

3月27日（月）12:10～13:40

会場：Room 8

この企画はダイバーシティ推進委員会主催のシンポジウムです。Zoom ミーティングで開催します。大会に参加する方は申込不要・参加費無料です。大会ウェブサイトからご入場ください（12:00～）。

<目的>

いつもとは異なる環境に身を置くことで、今まで常識と思っていたことがそうではなく、多様な価値観や考え方の違いに気づくことがあります。本シンポジウムでは、留学、研修、休暇制度などで、外の世界を経験したことによる気づきや意識の変化、その後のキャリア形成への影響についてご講演いただき、これから留学などに挑戦する学会員を後押しするとともに、多様性・平等・受容について考えてみるきっかけにしたいと考えています。

<プログラム>

- 開会挨拶 丹下 健（日本森林学会会長／東京大学）
- 講演① 北島薫（京都大学）「ダイバーシティを活用して適応力を発揮できる森林と社会」
- 講演② Larry Lopez（山形大学）「Double Degree Programs as an effective tool for Internationalization of universities in Japan（ダブルディグリー・プログラム、日本の大学の国際化のために有効な手段として）」
- 講演③ 伊藤幸介（新潟県森林研究所）「森林総合研究所の受託研修に参加して」
- 講演④ 浅野友子（東京大学）「サバティカルの多様な目的や効果」
- 閉会挨拶 久保田多余子

日本森林学会第134回大会 学会企画シンポジウム

留学・研修を通じて見えてくる 多様な価値観や考え方

2023.3.27 (月) 12:10~13:40
オンライン開催

いつもとは異なる環境に身を置くことで、多様な価値観や考え方の違いに気づくことがあります。本シンポジウムでは、留学、研修、休暇制度などにより、外の世界を経験したことによる意識の変化や、その後のキャリア形成への影響についてご講演いただきます。これから留学などに挑戦する方々を後押しするとともに、多様性・平等・受容について考えてみるきっかけとなれば幸いです。

プログラム

司会 田中浩 (ダイバーシティ推進委員/国際緑化推進センター)

12:10 開会 / 開会挨拶
丹下 健 (日本森林学会会長/東京大学教授)

12:15 ダイバーシティを活用して適応力を発揮できる森林と社会
北島 薫 氏 (京都大学教授)

12:30 Double Degree Programs as an effective tool for Internationalization of universities in Japan
(ダブルディグリー・プログラム、日本の大学の国際化のために有効な手段として)
Larry Lopez 氏 (山形大学教授)

12:45 森林総合研究所の受託研修に参加して
伊藤幸介 氏 (新潟県森林研究所主任研究員)

13:00 サバティカルの多様な目的や効果
浅野友子 氏 (東京大学講師)

13:15 総合討論

13:30 閉会挨拶 / 閉会
久保田多余子 (ダイバーシティ推進担当理事/森林総合研究所)



北島 薫 氏



Larry Lopez 氏



伊藤幸介 氏



浅野友子 氏

大会に参加される方は申し込み不要です。大会ウェブサイトからご入場 (12:00~) ください。

申込 方法

大会参加者以外の方は、下記URLまたは、QRコードからお申込みください。後日参加URLをお送りします。
(申込締切2023年3月22日/参加費無料)
<https://forms.gle/Gs3fhkzPn3VBTiLU8>



お問い合わせ

日本森林学会ダイバーシティ推進委員会
E-mail: diversitypromotion@forestry.jp

主催：  日本森林学会
The Japanese Forest Society Since 1914

後援：一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会



学会企画4. ゆるっと話そう あつまれ！がっかいの森

コーディネータ：山下詠子（ダイバーシティ推進委員，東京農業大学）
高田 乃倫予（ダイバーシティ推進委員，岩手大学）
久保田多余子（ダイバーシティ推進担当理事，森林総合研究所）
長谷川陽一（同主事，森林総合研究所）
ダイバーシティ推進委員会

3月26日（日）17:00～18:00

会場：oVice（オンライン交流スペース）

この企画は、ダイバーシティ推進委員会主催の交流会です。申込不要・参加費無料です。大会ウェブサイトの入力からお入りください。詳細は森林学会のホームページでお知らせします。

「ロールモデルとなるような先輩研究者が周りにいない」、「そもそも身近に同じ研究分野で相談できる先輩がいない」、「研究を活かした仕事に就きたいけれど、どんな仕事があるのか知りたい」などで悩むことはありませんか？この交流会では、仲間や先輩たちと、同じ分野を志す者同士ならではの情報交換や相談を気軽に行い、つながるための場を目指します。ちょっと勇気を出して、先輩研究者の経験談を聞いてみませんか？価値観や選択の多様性を知ること、自分のやりたいこと、やれること、やるべきことについて考えるヒントが見つかるかもしれません。

- ・育児や共働きの悩み
- ・育児と研究・仕事のバランスのとり方
- ・進学や留学
- ・ポストドク
- ・就職や転職
- ・キャリア形成

など、どんなテーマでもけっこうですので、老若男女問わず、お誘いあわせの上、沢山の皆様のご参加をお待ちしております。大勢では話しにくいという方には個室も用意する予定です。夕方の忙しい時間帯かと思いますが、お子さまと一緒に覗きに來ていただくのも大歓迎です。

ご不明な点はダイバーシティ推進委員会 (diversitypromotion@forestry.jp) までお問い合わせください。

学会企画 5. 帰国留学生会員およびアジアの林学会とのネットワークフォーラム

コーディネータ：大久保達弘（国際交流担当理事，宇都宮大学）
大田真彦（長崎大学）

交流会：3月26日 17:00~19:00，会場：Zoom開催（学会大会とは別のサイト）
ポスター発表：大会期間中，大会プラットフォームにて

日本森林学会には、多数の留学生が学生会員として所属し、発表を行なっている。しかし、会費負担等の関係から、帰国後は本学会を退会し、関係が疎遠になる場合が多い。

そこで、本企画では、オンライン開催のメリットを生かし、すでに本国に帰国した元留学生会員への学会参加・発表機会を提供する。目的としては、学位取得後の研究フォローアップ、学会発表実績の提供および帰国留学生会員同士や日本人会員との国際共同研究の萌芽形成を想定している。

参加者から事前に提出されたポスター発表を、学会の全日程、非同期（オンデマンド）形式で公開する。これに加え、本企画では、同期（リアルタイム）形式で交流会を行い、参加者同士が直接やりとりできる機会を提供し、今後の交流に向けた意見交換を予定している。

また、アジア各国の林学会（韓国，中国）からの活動内容の紹介も含む予定である。現在日本の大学に所属している留学生会員や日本人会員にも、積極的に参加して頂きたい。

同期（リアルタイム）形式で交流会への参加は、必要事項（参加者氏名・身分・所属先・メールアドレス）を、期日（3月25日）までに担当者（大田真彦（Ota Masahiko）あて（masahikoota@nagasaki-u.ac.jp）までお送りください。こちらからオンラインアドレス（ZOOM）をお送りいたします。

Online Reunion of Ex-Overseas Student Members and International Networking Forum among Forest Societies in Asia

Coordinator: OHKUBO Tatsuhiro (Director of International Exchange, JFS, Utsunomiya University)
OTA Masahiko (Nagasaki University)

Program

- ・Networking Meeting: March 26 (Sun) 2023, 5:00 PM – 7:00 PM (GMT+9) (the time is subject to change)
- ・Poster Presentations: All days

There are many active international student members in The Japan Forest Society. However, due to the burden of membership fees and other factors, many of them withdraw from the Society after returning to their home countries, and the relationship with the Society often becomes estranged. The purpose of this project is to provide an opportunity for former international students who have already returned to their home countries to participate in the conference and make presentations, taking advantage of the merits of the online conference. The purpose of this event is to follow up their research after obtaining their degrees, to provide them with an opportunity to present their research at academic conferences, and to form the seeds of international joint research among former international student members and with Japanese members.

The poster presentations submitted in advance by the participants will be opened to the public in an asynchronous (on-demand) format during the entire meeting. In addition to this, we plan to hold an exchange meeting in a synchronous (real-time) format to provide an opportunity for participants to communicate directly with each other and exchange opinions for future exchanges. And also we plan to include an introduction of activities from forestry societies in Asian countries (South Korea and China). We hope that international and Japanese members who currently belong to Japanese universities will actively participate in the meeting.

If you would like to participate in the networking meeting in a synchronous (real-time) format, please send the required information (participant's name, status, affiliation, and e-mail address) to Dr. Ota Masahiko (masahikoota@nagasaki-u.ac.jp) by the deadline (March 25(Sat), 2023). We will send you the web meeting (Zoom) address.

Poster presentations from overseas

- GP-01 Physiological and transcriptome responses to elevated CO₂ in *Pinus densiflora***
Hyemin Lim, Tae-Lim Kim
Department of Forest Bioresources, National Institute of Forest Science, Suwon 16631
- GP-02 Development of cytoplasmic DNA markers for identification of cross-species hybrid between *Larix gmelinii* (Rupr.) Kuzen. var. *olgensis* (A.Henry) and *Larix kaempferi* (Lamb.)**
Ji-Young Ahn^{*}, Jei-Wan Lee, Ju-Yeon Park
Department of Forest Bioresources, National Institute of Forest Science, Suwon 16631, Republic of Korea
- GP-03 Genetic effect changes over forty years of *Pinus koraiensis* progeny testing**
Kyungmi Lee, In-Sik Kim
Division of Tree improvement and Biotechnology, Department of Forest Bio-Resources, National Institute of Forest Science, Republic of Korea
- GP-04 Investigation and selection of superior forest stands and trees of *Quercus acuta* in Korea**
Yeongkon Woo, Kyung Mi Lee
Forest Bioresources Department, National Institute of Forest Science
- GP-05 Main Activities of Korean Society of Forest Science in 2022**
Soo Hyung EO^{1,2}, Ho Sang KANG^{1,3}, Su Young WOO^{1,4}
¹ *Korean Society of Forest Science, Seoul 02455, Korea,*
² *Department of Forest Science, Kongju National University, Chungnam 32439, Korea*
³ *Institutes of Green Bio Science and Technology, Seoul National University, Pyeongchang, 25354 Korea,*
⁴ *Department of Environmental Horticulture, University of Seoul, Seoul, 02504 Korea*
- GP-06 Elevational pattern of soil nematode diversity and the drivers in temperate forest of South Korea**
Hae-In Lee^{a,b*}, Tae-Won Um^c, Ke Dong^d, Hyung Seok Sim^{b,e}, Min-Ki Lee^{b,e}, Yong-Ju Lee^{b,e}, Chang-Bae Lee^{a,b,f}
^a *Department of Climate Technology Convergence (Biodiversity and Ecosystem Functioning Major), Kookmin University, Seoul, Republic of Korea*
^b *Creative Convergence Forest Science Specialist Training Center, Kookmin University, Seoul, Republic of Korea*
^c *Forest Restoration and Ecology Research Institute, Seoul, Republic of Korea*
^d *Department of Biological Sciences, Kyonggi University, Suwon, Republic of Korea*
^e *Department of Forest Resources, Kookmin University, Seoul, Republic of Korea*
^f *Department of Forestry, Environment and Systems, Kookmin University, Seoul, Republic of Korea*
- GP-07 Supply, Trade-offs, and Synergies estimation for regulating ecosystem services(ES) of local forests**
Jang-Hwan Jo^{1,2}
¹ *Department of Forest Sciences and Landscape Architecture, Institute of Life Science and Natural Resources, Wonkwang University, 460 Iksan-daero, Iksan 54538, Korea*
² *Institute of Environmental Science, Wonkwang University, 460 Iksan-daero, Iksan 54538, Korea*
- GP-08 Comparison of internal defects of *Platanus occidentalis* street trees under different levels of pruning**
Hyojun Ahn¹, Junhyung Park¹, and Ki Woo Kim^{1,2}
¹ *Department of Ecology and Environmental System, Kyungpook National University, Sangju 37224, Korea*
² *Tree Diagnostic Center, Kyungpook National University, Sangju 37224, Korea*
- GP-09 Risk assessment of *Cedrus deodara* street trees in Daegu and Gyeongbuk, Korea**
Junhyung Park¹, Hyojun Ahn¹, and Ki Woo Kim^{1,2}
¹ *Department of Ecology and Environmental System, Kyungpook National University, Sangju 37224, Korea*
² *Tree Diagnostic Center, Kyungpook National University, Sangju 37224, Korea*

- GP-10 Differences in the trait of microbial communities between coniferous and broad-leaved forests**
 Seok Hui Lee*, Jun Young Park, Dae Sol Kim, Soo Hong Jeon, Jun Won Kang
Department of Forestry, Kyungpook National University, South Korea
- GP-11 A Study on Zero-deforestation Commitment of ESG management of Corporation: Focusing on domestic companies**
 RY Kim, YH Lee
Seoul National University
- GP-12 Changes in biodiversity of poplar plantation for energy production in Saemangeum reclaimed land of Korea**
 Woobin Youn¹⁾, Si Ho Han^{1), 2)}, Ji Young An^{1), 2)}, Byung Bae Park^{1)*}
¹⁾ *Department of Environment and Forest Resources, Chungnam National University, Korea*
²⁾ *Institute of Agricultural Science, Chungnam National University, Korea*
- GP-13 Contrasting effect of torrefied wood chips and vermicompost on the growth of tree and weed in salt-affected reclaimed land of Korea.**
Suggestions for Improving Crop Productivity and Quality in Soil Reclamation Areas
 Hyung Won Kim¹⁾, Ji Young An¹⁾, Aung Aung¹⁾, Si Ho Han^{1), 2)}, Woo bin Youn¹⁾, Byung Bae Park^{1)*}
¹⁾ *Department of Environment and Forest Resources, Chungnam National University, Korea*
²⁾ *Institute of Agricultural Science, Chungnam National University, Korea*
- GP-14 Enhancing livelihood of poor farmers through inclusion of improved agroforestry models in the Madhupur Sal forest of Bangladesh**
 Kazi Kamrul Islam
Department of Agroforestry, Faculty of Agriculture, Bangladesh Agricultural University, Mymensingh-2202, Bangladesh.
- GP-15 Introduction of Chinese Society of Forestry**
 Feng Caiyun
Chinese Society of Forestry, China

第 134 回日本森林学会大会での関連研究集会の情報

例年、日本森林学会大会時には関連研究集会が開催されています。

第 134 回大会はオンライン開催のため、大会運営委員会による会場の手配はせず、掲載を希望した集会の情報のみをお伝えします。詳細は主催者にお問い合わせください。

1. 134 回日本森林学会大会のオンライン交流スペース
2. 森林教育懇談会
3. 森林立地学会
4. 森林遺伝育種学会
5. 森林昆虫談話会
6. 樹木病害研究会
7. 林業経済学会
8. 森林計画学会

1. 134 回日本森林学会大会のオンライン交流スペース

第 134 回大会運営委員会では、大会参加者が休憩をしたり、議論を深めたり、交流を深めたりするための場として、oVice（オヴィス）を使ったオンライン交流スペース（以下、交流スペース）を用意します。交流スペースは、大会に先だって 2023 年 3 月中旬からお試しいただけるよう準備し、大会閉会日の 3 月 27 日（火）まで毎日ご利用頂ける予定です。具体的なお案内については大会ウェブページに掲載して参ります。ご注目下さい。

oVice は、オンライン上のアバターを使って音声会話や画面共有・ビデオ通話ができるバーチャルオフィスツールです。アバター間の距離に連動して、近くにいる人の声や会話が聞こえるため、他者に声をかけやすいのが特徴です。内緒話には向きませんが、ちょっとした会話がしやすいので、ポスター発表の音声やビデオによる質疑、各種集会後の自由討論、雑談などにぜひご利用下さい。アバターは oVice 内を自由に動き回ることができ、任意の場所で自由に会話をお楽しみいただけます。グループでのご利用を想定した 10 のスペースを用意する予定です。スペースは oVice 内を視覚的にゆるく仕切り、集合のために場所を示すもので、参加は制限されません。グループでの閉じた会話に向けた会議室も用意します。スペースや会議室利用のルールは大会までにお知らせします。

既に oVice をご存じの方も多いと思いますが、簡単な紹介は公式ページ <https://ovice.in/ja/> をご覧下さい。大会運営委員会では業者に委託して oVice の簡単な利用マニュアルの用意と参加者サポートの実施を予定しています。第 134 回大会での oVice 利用に関するお問い合わせは、大会参加に関するお問い合わせフォーム <https://www.forestry.jp/inquiry/> にお願ひします。

1. Networking Space at the 134th Annual JFS Meeting

The steering committee of 134th Annual JFS Meeting will prepare virtual networking spaces using oVice, where the meeting participants can take a break, deepen discussions and interact with each other. The networking spaces are available from the middle of March, 2023 until Monday, March 27, 2023, the closing day of the meeting. You can see an introduction of oVice: <https://www.ovice.com>. Guide and support for users will be provided until the beginning of the meeting. We will prepare 10 spaces for open group conversation without limited number of participants, and you can move freely between the spaces. In addition, several meeting rooms for closed discussion shall be available. Let's share how to use the networking spaces with other users and enjoy additional fruitful time in the networking spaces during the meeting.

For inquiries, <https://www.forestry.jp/inquiry/>

2. 森林教育懇談会

研究集会名：森林教育懇談会

テーマ：次世代に向けた森林教育への期待

日時：3月21日（火）15:00～17:00

開催方法：オンライン会議システム（Zoom 利用）・事前登録制（50名まで）

事前登録：2022年3月14日（火）17:00 締め切り

参加費：無料（日本森林学会会員以外も参加可能）

連絡先：希望者は、指定の Google フォームに記入

<https://forms.gle/VZHV9WTmEUMEj6Mb8>

世話人：山田亮（北海道教育大学）、杉浦克明（日本大学）、東原貴志（上越教育大学）

井上真理子（森林総合研究所）



内容：日本森林学会の教育部門は、第114回大会（2003年）から継続してきた企画シンポジウムなどが発展し、第129回大会（2018年）から設置されました。これまでも森林教育の関係者によって、学会大会では地域の実践者や他分野の研究者を交えた企画シンポジウムを開催すると共に、現地検討会・エクスカージョン（2017年鹿児島大学演習林、2018年高知県日本遺産地域、2019年佐渡島）を行い、さらに学生ゼミ（2019年8月、2020年3月・8月、2021年9月、2022年9月）、森林教育懇談会（2022年3月オンライン）を開催するなど研究交流を行ってきています。

昨年に続きオンライン大会となった今大会も、森林教育をさらに深めるために、オンライン懇談会を企画しました。今回は、長年、森林教育の研究に携わってこられた比屋根哲氏（岩手大学）より、これまでの森林教育を振り返りながら、これから期待されることについてお話しいたします。そのお話をもとに、みなさんと意見交換をしたり、素朴な疑問・質問にお答えいただいたりします。森林学会の会員をはじめ、これから森林教育研究に取り組む学生や若手の皆さんや、他分野の研究者の方や学生など、多くの方のご参加をお待ちしています。当日は、参加者同士の交流（研究紹介など）も行う予定です。

3. 森林立地学会

テーマ：知られざる「森林土壌と気候変動」－カーボンニュートラル（ネットゼロ）の鍵を握る土壌－

日程：2023年3月22日（水） 13:30～15:30

開催方法：Zoom Webinar によるリモート会議

参加方法：詳細は森林立地学会のホームページ (<https://shinrin-ritchi.jp/>) とメーリングリストでお知らせします。参加費無料。

連絡先：山下尚之（森林総合研究所）・渡邊仁志（岐阜県森林研究所）

Email: ritchi_excursion@ffpri.affrc.go.jp

内容：カーボンニュートラル（ネットゼロ）への取り組みが加速しています。森林の重要性は気候変動（地球温暖化）問題が取り沙汰され始めた数十年前から認識されてきましたが、その重要性はこれまで以上に高まっています。「森林」と聞くと、樹木による炭素吸収を思い浮かべるかもしれませんが、実は炭素は樹木よりも土壌に多く蓄積しています。また、土壌は第2の温室効果ガスであるメタンも吸収しています。土壌は樹木と同じぐらい、またはそれ以上に気候変動問題の鍵を握っていると言えます。このような一般的にはあまり認識されていない「森林土壌と気候変動」について、土壌の重要性、メカニズム、測定法、最新の推定などを分かりやすくご紹介していきます。また農業分野の動向や民間企業の取り組みについても紹介します。今回もオンラインでの開催としましたので、多くの皆様の参加をお待ちしています。なお、日時と発表タイトルは変更する可能性がありますので、最新の情報は、学会ホームページやメーリングリストで、随時お知らせします。

4. 森林遺伝育種学会

集会名：第12回森林遺伝育種シンポジウム

テーマ：エリートツリーが拓く未来

開催日：2023年3月28日（火）9:30～12:30

開催方法：オンライン（Zoom webinar による開催）

申込方法：2023年3月14日17時までに、参加登録フォームからお申込みください。

(<https://forms.gle/qKwEdAhgiaAUzv7v5>)

連絡先：後藤 晋（東京大学大学院農学生命科学研究科）

Email: gotos@uf.u-tokyo.ac.jp

話題提供者

1) 栗田 学（森林総合研究所林木育種センター）

「エリートツリー、これまでの歩みと将来展望」

2) 福田 拓実（静岡県農林技術研究所）

「静岡県におけるスギ・ヒノキのエリートツリーの開発と普及」

3) 来田 和人・今 博計・石塚 航（北海道道立総合研究機構）

「クリーンラーチ（特定母樹「中標津5号」×カラマツ精英樹）の普及に向けた取り組み－採種園整備・挿し木技術開発・分業化－」

4) 伊藤 寛規 (住友林業株式会社)

「民間企業におけるエリートツリーに対する普及・利用」

5) 伊藤 哲 (宮崎大学農学部)

「造林・施業の観点からみたエリートツリーへの期待と要望」

5. 森林昆虫談話会

研究集会名：第 29 回森林昆虫談話会

テーマ：森に棲む昆虫と植物の密接な関係

日時：2023 年 3 月 28 日 (火) 9:00~12:00

開催方法：オンライン開催

申込方法：希望者は、Google フォーム(下記 URL) から事前登録

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeVIWo4K-dXN9tUklf1L2SCtPKYw7XXAuBQbvt343IntlB0Aw/viewform?usp=pp_url

申込締切：2023 年 3 月 21 日 (月)

連絡先：衣浦晴生 (森林総合研究所) E-mail: kinuura<アットマーク>ffpri.affrc.go.jp

内容：森林には、森林の基盤といえる植物と、それらを利用する昆虫をはじめとする多様な生物が生息し、互いに影響を及ぼし及ぼされながら生きている。植物依存性昆虫は、植物にどのような影響を与えるのだろうか？逆に、植物は、昆虫にどのような影響を与えるのだろうか？どのように昆虫を利用するのだろうか？

今回は、「森林における昆虫と植物の関係」に着目し、植物の形質と昆虫の行動、成長、繁殖との関係について4名の研究者より話題提供していただき、昆虫と植物の相互作用の多様性について理解を深める。

<話題提供>

1. 「キノコバエ媒送粉シンドローム：森林性送粉者と植物の新たな関係性」

望月 昂 (東京大学大学院理学系研究科附属植物園)

2. 「葉を加工するオトシブミ科昆虫にとっての葉の形」

樋口裕美子 (東京大学大学院理学系研究科附属植物園)

3. 「シカの採食に対する植物の応答と昆虫への間接効果」

高木 俊 (兵庫県立大学)

4. 「カブトムシの活動時間と宿主樹種との関係」

小島 渉 (山口大学大学院創成科学研究科), 柴田 亮 (杉戸町立広島中学校), 神田 旭 (高知大学大学院総合人間自然科学研究科)

世話人：衣浦晴生 (森林総合研究所)・伊藤昌明 (青森県産業技術センター林業研究所)・土岐和多留 (名古屋大学)

6. 樹木病害研究会

テーマ：樹木病害における病原性・病原力とは？

日時：2023年3月28日（火）9:00～12:00

開催方法：Zoomを用いたオンライン開催(各自インストールのこと)

申込方法：申込メールアドレス [treediseasejp <アットマーク>gmail.com](mailto:treediseasejp@gmail.com) へ申込，受付後にメールで参加 URL を連絡

申込締切：3月24日（金）先着 90 名

連絡先：楠本 大 〒299-5503 千葉県鴨川市天津 770，東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林，[kusumoto <アットマーク>uf.a.u-tokyo.ac.jp](mailto:kusumoto@uf.a.u-tokyo.ac.jp)

石原 誠 〒860-0862 熊本県熊本市中央区黒髪 4 丁目 11 番 16 号，森林総合研究所九州支所，[makolin <アットマーク>ffpri.affrc.go.jp](mailto:makolin@ffpri.affrc.go.jp)

高橋由紀子 〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1，森林総合研究所きのこ・森林微生物研究領域 森林病理研究室，[ytakah <アットマーク>ffpri.affrc.go.jp](mailto:ytakah@ffpri.affrc.go.jp)

内容：病原性 pathogenicity とは、宿主に侵入する能力や宿主内で増殖する能力、宿主を変質させる能力のことを指し、病原力 virulence はその能力の程度のことを指すが、これらは時として混同されがちである。様々な病害がある中で、病原性や病原力は病原体の分類群や生態、宿主の感染部位や組織によって評価の方法が大きく異なるため、画一的に定義するのが難しく、同じ尺度で図ることができない。今年の樹木病害研究会では、いくつかの樹木病害を例に、研究成果や課題をご紹介いただき、樹木病害における病原性・病原力についての判断基準や解釈について議論し、理解を深める場としたい。

7. 林業経済学会

研究集会名：林業経済学会 2023 年春季大会シンポジウム

大会日程：2023 年 3 月 28 日（火） 13:00～17:00

会場：オンライン（視聴の方法等は、追って学会の HP、メールマガジン等でお知らせします）

テーマ：ウッドショックに見る木材生産流通構造問題

連絡先：林業経済学会 2023 年春季大会運営委員会 2023_spring@jfes.org

開催主旨

米国での新型コロナウイルス感染症拡大を契機として、2021 年前半にウッドショックと呼ばれる木材価格の急騰が生じた。このウッドショックを足掛かりとして、本邦の木材生産流通構造問題について、海外動向、国内流通、国産材生産の 3 つの視点から報告いただいた上で地域性や材種にも着眼しつつ総合的に議論する。その際、ウッドショックの短期的な影響に加え、今後の長期的な木材生産流通構造、ひいては林業・木材産業の安定的な発展方向を論点として議論を行いたい。

報告者・コメンテーター・座長

- ・第 1 報告：福田 淳氏(林野庁 前木材貿易対策室長)

「ウッドショックと世界の木材貿易」

ITTO や FAO/UNECE の報告書などを基に、海外の木材貿易動向や日本の木材輸入動向についてご報告いただく。

- ・第 2 報告：幡 建樹氏(東京大学)

「ウッドショックと木材加工流通」

製材業、集成材生産業、プレカット業を中心とした木材加工流通段階について、マクロ・ミクロの両面からご報告いただく。

- ・第 3 報告：大塚 生美氏(森林総合研究所東北支所)

「ウッドショックと北東北地方における林業生産」

大規模林産加工工場を控えた北東北 3 県（青森県・秋田県・岩手県）を対象として、ウッドショックと林業生産の関係について報告いただく。

- ・コメンテーター：藤掛 一郎氏(宮崎大学)、松下 幸司氏(京都大学)

- ・座長：立花 敏氏(筑波大学)

8. 森林計画学会

集会名：森林計画学会総会

日時：2023年3月29日（水）午前中

開催方法：ABO HALL 301 会議室（100名程度）＋オンライン

〒450-0002 愛知県名古屋市 中村区名駅 3-15-9

申込方法：会員メーリングリスト等で案内する総会参加申し込みフォームから申込み

内容：今年度の活動報告、決算報告および次年度の活動計画、予算の審議。

森林計画学会各賞の授賞式および受賞者講演

連絡先：田中真哉 〒612-0855 京都市伏見区桃山町永井久太郎 68 番地 森林総合研究所

関西支所内森林計画学会事務局（jsfp_office<アットマーク>forestplanning.jp）

集会名：森林計画学会春季シンポジウム

テーマ：森林の長期計測とその課題（仮）

日時：2023年3月29日（水） 13:15-17:00

開催方法：ABO HALL 301 会議室（100名程度）＋オンライン

〒450-0002 愛知県名古屋市 中村区名駅 3-15-9

申込方法：シンポジウム参加申し込みフォームにて申込み

連絡先：高橋正義 〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1

森林総合研究所 森林災害・被害研究拠点（jsfp.event<アットマーク>gmail.com）

内容：

森林の長期計測は森林の変動を定量的に把握するもっとも基本的な手段で、森林経営学に関連する教員、研究者などが演習林や国有林等に設置された試験地を長年計測することで貴重なデータを積み上げている。長期計測データは、成長予測、資源予測、温暖化の影響評価などに活用されており、針葉樹人工林を中心とした森林資源の充実と長伐期化に対応した計測の継続と計測データを活用した研究の深化が求められている。また、長期計測データをさらに多様に活用すべく、データのオープン化、ビッグデータとしての活用など社会の要請も高まっている。

一方で、長期計測に伴って、これまで経験していない技術的な課題や自然災害、人員、予算不足等による調査の中断、中止など長年議論されている課題、問題が生じている。育種学、生態学など関係分野でも同様に、森林の長期計測の高まる重要性と諸問題は認識され、議論されている。

そこで、長期計測の現状や成果、課題を共有し、21世紀に引き継ぎ、さらに深化させるための方策について議論するシンポジウムを開催する。

詳細は学会ウェブサイト（<https://www.forestplanning.jp/>）に掲載いたします。